

中 峰 遺 跡
児 松 遺 跡

一般国道468号線首都圏中央連絡自動車道
新設工事地内埋蔵文化財調査報告書

平成20年3月

国土交通省 常総国道事務所
財団法人 茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第286集

な 中 峰 遺 跡
こ 児 松 遺 跡

一般国道 468 号線首都圏中央連絡自動車道
新設工事地内埋蔵文化財調査報告書

平成 20 年 3 月

国土交通省 常総国道事務所
財団法人 茨城県教育財団

序

茨城県は、県土の均衡ある発展を念頭におきながら地域の特性をいかした振興を図るために、高規格幹線道路などの根幹的な県土基盤の整備とともに、広域的な交通ネットワークの整備を進めております。

首都圏中央連絡自動車道の建設は、首都圏の中核都市を相互に結ぶことにより地域の核となる都市群を形成し、さらにこれらの地域における交通の円滑化を図り、地域の自立性を高める拠点となる都市整備を目的として計画されたものです。

この事業予定地内には埋蔵文化財包蔵地である中峰遺跡及び児松遺跡が所在します。

財団法人茨城県教育財団は、国土交通省関東地方整備局常総国道事務所から埋蔵文化財の発掘調査について委託を受け、平成19年1月から3月まで発掘調査を実施しました。

本書は、中峰遺跡及び児松遺跡の調査成果を収録したものです。学術的な研究資料としてはもとより、郷土の歴史に対する理解を深めるために活用されることによりまして、教育・文化の向上の一助となれば幸いです。

最後になりますが、発掘調査から報告書の刊行に至るまで、委託者である国土交通省関東地方整備局常総国道事務所から多大な御協力を賜りましたことに対し、厚く御礼申し上げますとともに、茨城県教育委員会、稲敷市教育委員会をはじめ、関係各位からいただいた御指導、御協力に対し深く感謝申し上げます。

平成20年3月

財団法人 茨城県教育財団
理事長 人見 實 徳

例 言

1 本書は、国土交通省関東地方整備局常総国道事務所の委託により、財団法人茨城県教育財団が平成18年度に発掘調査を実施した茨城県稲敷市江戸崎乙795番地ほかに所在する中峰遺跡、同市江戸崎甲3840番地の1の児松遺跡の発掘調査報告書である。

2 遺跡の発掘調査期間及び整理期間は、以下のとおりである。

調 査 平成19年1月1日～平成19年3月31日

整 理 平成19年4月1日～平成19年6月30日

3 発掘調査は、調査課長川井正一のもと、以下の者が担当した。

中峰遺跡

首席調査員兼班長 川又 清明

主任 調 査 員 綿引 英樹

主任 調 査 員 青木 亨 平成19年2月1日～平成19年3月31日

主任 調 査 員 本橋 弘巳

副主任 調 査 員 小林 悟

児松遺跡

首席調査員兼班長 川又 清明

主任 調 査 員 青木 仁昌

主任 調 査 員 本橋 弘巳

副主任 調 査 員 小林 悟

4 整理及び本書の執筆・編集は、整理課長村上和彦のもと、主任調査員本橋弘巳が担当した。

5 石器の実測については、その一部を（株）アルカに委託した。

凡 例

- 1 地区設定は、日本平面直角座標第Ⅳ系座標に準拠し、中峰遺跡についてはX軸 = -5,840m, Y軸 = +43,360mの交点、見松遺跡についてはX軸 = -5,600m, Y軸 = +43,120mの交点を基準点 (A 1a1) とした。なお、この原点は、世界測地系による基準点である。

調査区は、この基準点を基に遺跡範囲内を東西・南北40m四方の大調査区に分割し、さらに、この大調査区を東西・南北に各々10等分し、4m四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は、アルファベットと算用数字を用い、北から南へA, B, C…、西から東へ1, 2, 3…とし、「A 1区」、「B 2区」のように呼称した。さらに、小調査区は、北から南へa, b, c…j, 西から東へ1, 2, 3…0とし、名称は、大調査区の名称を冠して「A 1a1区」、「B 2b2区」のように呼称した。

- 2 実測図・一覧表・遺物観察表等で使用した記号は次のとおりである。

遺構 SI-住居跡 SK-土坑・土坑墓・火葬土坑 TP-陥し穴 UP-地下式坑 SD-溝跡

SM-地点貝塚 HG-遺物包含層 SS-石器集中地点 P-柱穴

遺物 TP-拓本記録土器 DP-土製品 Q-石器・石製品 M-金属製品・古銭

土層 K-攪乱

- 3 遺構・遺物実測図の作成方法については、次のとおりである。

(1) 遺構全体図は600分の1、遺構実測図は住居跡・土坑・地下式坑は60分の1、遺物包含層は100分の1、石器集中地点は80分の1に縮尺して掲載することを基本とした。

(2) 遺物実測図は原則として3分の1で掲載した。種類や大きさにより異なる場合は、個々に縮尺をスケールで表示した。

(3) 遺構及び遺物の実測図中の表示は次のとおりである。

 = 焼土・赤彩・施軸  = 炬・火床面  = 貝層

● = 土器 ○ = 土製品 □ = 石器・石製品 △ = 金属製品・古銭 --- = 硬化面

なお、出土した土器片の器種や石器の石材を区別して図示する場合は、別に表示した。

- 4 土層観察と遺物における色調の判定には、「新版標準土色帖」(小山正忠・竹原秀雄編著 日本色研事業株式会社)を使用した。

- 5 遺構一覧表・遺物観察表の表記については、次のとおりである。

(1) 計測値の単位は、m・cm, kg・gである。なお、現存値は()で、推定値は[]を付して示した。

(2) 備考の欄は、残存率や写真図版番号等、その他必要と思われる事項を記した。

(3) 遺物番号については、土器、拓本のみ記載の土器片、土製品、石器・石製品、金属製品・古銭ごとに通し番号とし、本文・挿図・写真図版を記した番号も同一である。

- 6 「主軸」は、炬または竈をもつ住居跡については炬または竈を通る軸線を主軸とし、その他の遺構については長軸・長径を主軸とみなした。主軸方向は、軸線が座標北からみて、どの方向にどれだけ振れているかを角度で示した(例 N-10°-E)。

抄 録

ふりがな	なかみねいせき こまついせき								
書名	中峰遺跡 見松遺跡								
副書名	一般国道468号線首都圏中央連絡自動車道新設工事地内埋蔵文化財調査報告書								
巻次									
シリーズ名	茨城県教育財団文化財調査報告								
シリーズ番号	第286集								
著者名	本橋 弘巳								
編集機関	財団法人 茨城県教育財団								
所在地	〒310-0911 茨城県水戸市見和1丁目356番地の2 TEL029-225-6587								
発行日	2008(平成20)年3月24日								
ふりがな 所取遺跡	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	標高	調査期間	調査面積	調査原因	
中峰遺跡	茨城県稲敷市江 戸崎乙795番地 ほか	08441 - 037	35度 56分 50秒	140度 18分 48秒	20 ~ 21m	20070101 ~ 20070331	6,706㎡	一般国道468号線首都圏中央連絡自動車道(圏央道)新設(江戸崎IC~千葉県境)事業に係る埋蔵文化財記録保存のための発掘調査	
見松遺跡	茨城県稲敷市江 戸崎甲3,840番地 の1	08441 - 108	35度 56分 45秒	140度 18分 54秒	19 ~ 20m	20070101 ~ 20070331	847㎡		
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項		
中峰遺跡	製作跡	旧石器	石器集中地点5か所 炭化物集中地点4か所		石器(ナイフ形石器・彫器)、石核、剥片、砕片		安山岩や頁岩、流紋岩を用いた石器製作跡が確認され、石核やナイフ形石器、彫器、剥片、砕片などが出土している。 中世には地下式坑が4基構築され、第3号地下式坑は堅坑が2か所検出されている。		
	その他	縄文	土坑 2基		縄文土器				
	集落跡	古墳	竪穴住居跡 4軒		土師器、須恵器、土製品(球状土錘、管状土錘・礮形土製品)、貝(ヤマトシジミ・カワニナ)				
	その他	中世	地下式坑 4基 土坑墓 1基 火葬土坑 3基		陶器、磁器、古銭(開元通寶)、貝(ヤマトシジミ)				
	その他	時期不明	炉跡 4基 土坑墓 2基 地点貝塚 3か所 土坑 71基 溝跡 1条		土師器、須恵器、陶器、磁器、土製品(管状土錘)、不明鉄製品、礫、貝(ヤマトシジミ)				
見松遺跡	集落跡	縄文	竪穴住居跡 1軒		縄文土器、土製品(土器片錘・土器片円盤)、礫		竪穴住居跡や陥し穴、遺物包含層が検出され、石鍬や土器片錘などが出土している。		
	その他	縄文	陥し穴 1基 土坑 1基 遺物包含層 1か所		縄文土器、土製品(土器片錘・土器片円盤)、石器(石鍬・尖頭器・細石刃)				
	その他	時期不明	土坑 6基						
要約	中峰遺跡は、安山岩や頁岩・流紋岩を用いた旧石器時代の石器製作跡のほか、中世には墓域として土地利用されていたことが判明した。 見松遺跡は、縄文時代中期後葉の時期の竪穴住居跡が1軒検出されており、周辺を含め小集落が営まれていたと考えられる。								

目 次

序	
例言	
凡例	
抄録	
目次	
第1章 調査経緯	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査経過	1
第2章 位置と環境	3
第1節 地理的環境	3
第2節 歴史的環境	3
第3章 中峰遺跡	9
第1節 遺跡の概要	9
第2節 基本層序	9
第3節 遺構と遺物	10
1 旧石器時代の石器集中地点と遺物	10
(1) 調査の概要	10
(2) 石器集中地点の記載方法	10
(3) 石器集中地点、炭化物・焼土集中地点	10
2 縄文時代の遺構と遺物	24
土坑	24
3 古墳時代の遺構と遺物	25
竪穴住居跡	25
4 中世の遺構と遺物	33
(1) 地下式坑	33
(2) 土坑墓	37
(3) 火葬土坑	38
5 その他の遺構と遺物	39
(1) 加跡	39
(2) 土坑墓	40
(3) 地点貝塚	42
(4) 土坑	43
(5) 溝跡	47
(6) 遺構外出土遺物	48
第4節 まとめ	48
第4章 児松遺跡	51
第1節 遺跡の概要	51
第2節 基本層序	51
第3節 遺構と遺物	52
1 縄文時代の遺構と遺物	52
(1) 竪穴住居跡	52
(2) 陥し穴	54
(3) 土坑	55
(4) 遺物包含層	55
2 その他の遺構と遺物	58
(1) 土坑	58
(2) 遺構外出土遺物	59
第4節 まとめ	60
写真図版	

第1章 調査経緯

第1節 調査に至る経緯

国土交通省は、首都圏全体の発展と交通の円滑化を図るために、一般国道468号首都圏中央連絡自動車道の建設を進めている。

平成16年9月29日、国土交通省常総国道事務所長は茨城県教育委員会教育長に対して、一般国道468号首都圏中央連絡自動車道の新設における埋蔵文化財の所在の有無及び取り扱いについて照会した。

これを受けて茨城県教育委員会は平成17年3月8日に中峰遺跡、見松遺跡の現地踏査を実施し、平成18年2月21～23日に中峰遺跡の試掘調査を、さらに平成18年7月4～5日に見松遺跡の試掘調査を実施し、中峰遺跡、見松遺跡の所在を確認した。茨城県教育委員会教育長は国土交通省常総国道事務所長あてに平成18年2月24日に中峰遺跡、平成18年8月10日に見松遺跡が事業地内に所在すること及びその取り扱いについて別途協議が必要であることを回答した。

平成18年2月24日、国土交通省常総国道事務所長は茨城県教育委員会教育長に対して、文化財保護法第94条に基づく土木工事の通知を提出した。また、平成18年10月12日、国土交通省常総国道事務所長は茨城県教育委員会教育長に対して、文化財保護法第94条に基づく土木工事の通知を提出した。茨城県教育委員会教育長は計画変更が困難であることから、記録保存のための発掘が必要であると判断し、中峰遺跡については平成18年2月27日、見松遺跡については平成18年10月13日に国土交通省常総国道事務所長あてに工事着手前に発掘調査を実施するよう通知した。茨城県教育委員会教育長は国土交通省常総国道事務所長あてに、中峰遺跡、見松遺跡について発掘調査の範囲及び面積等について回答し、併せて埋蔵文化財の調査機関として財団法人茨城県教育財団を紹介した。

平成18年10月23日、茨城県教育委員会教育長は国土交通省常総国道事務所長及び財団法人茨城県教育財団理事長に対して、一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設事業（江戸崎1C～千葉県境）に係る平成18年度埋蔵文化財発掘調査計画の変更についての協議書を提出した。平成18年10月24日、財団法人茨城県教育財団理事長は、茨城県教育委員会教育長あてに、中峰遺跡、見松遺跡の発掘調査計画の変更について同意する旨の回答をし、平成18年10月26日、国土交通省常総国道事務所長から茨城県教育委員会教育長あてに、中峰遺跡、見松遺跡の発掘調査計画の変更について同意する旨の回答があった。

財団法人茨城県教育財団は、国土交通省常総国道事務所長から中峰遺跡、見松遺跡の埋蔵文化財発掘調査事業について委託を受け、平成19年1月1日～3月31日まで発掘調査を実施した。

第2節 調査経過

調査は、中峰遺跡、見松遺跡ともに平成19年1月1日から同年3月31日まで実施した。

その概要を表で記載する。

中峰遺跡

工程 \ 期間		1月		2月		3月	
調査表遺	査土構 準除確 備去認	■					
遺構	調査			■			
遺注写	物記真 洗作整 浄業理			■			
補綴	足調査 取						■

見松遺跡

工程 \ 期間		1月		2月		3月	
調査表遺	査土構 準除確 備去認	■					
遺構	調査		■	■			
遺注写	物記真 洗作整 浄業理			■			
補綴	足調査 取						■

第2章 位置と環境

第1節 地理的環境

中峰遺跡・児松遺跡が所在する稲敷市（旧江戸崎町）は、茨城県の南部に位置しており、北は霞ヶ浦南岸に面し、東は横利根川、南は利根川を挟んで千葉県と境を接している。地形は、霞ヶ浦水系及び利根川水系による沖積低地と稲敷台地と呼ばれる標高20～30mの洪積台地からなっており、その台地は西部から流入して霞ヶ浦に注ぐ小野川、小野川の支流である清水川や花指川などによって樹枝状に開析されている。稲敷台地の地層は、成田層を基盤として成田層下部、成田層上部、竜ヶ崎砂礫層、常総粘土層、関東ローム層、表土の順に堆積しており、その堆積状況は水平かつ単調で、褶曲や断層は見られない¹⁾。

中峰遺跡・児松遺跡はともに小野川と沼里川に挟まれた標高20mほどの舌状台地上に立地している。遺跡の調査前の現況は畑地である。

第2節 歴史的環境

稲敷市（旧江戸崎町）は河川、低地、台地と変化に富んだ自然環境を示し、台地上には数多くの遺跡の分布が認められており、これまで旧石器時代から近世までの約160遺跡が周知されている。ここでは主な遺跡について時代を追って述べる。

旧石器時代の遺跡は、これまで確認されていない。近年の調査で、住居跡や土坑の覆土からナイフ形石器、剥片などが出土した例は増加しているものの、明確な生活痕跡はつかめていない²⁾。

縄文時代になると明らかに遺跡数が増加しており、中期の村田貝塚（3）や後期の椎塚貝塚（4）、ほかに沼田貝塚（5）、吹上貝塚（6）などの貝塚が多く確認されている。縄文時代の霞ヶ浦は鹹水域であり³⁾、村田貝塚では、ハマグリ、オキシジミ、シオフキなどの貝のほか魚骨、獣骨や骨角器、土鍾などが出土しており、漁労を営んだ当時の様子をうかがい知ることができる。椎塚貝塚は、注口土器や山形土偶、石棒のほか、ヤスが突き刺さった状態で発見されたタイの頭骨が知られている。

弥生時代の遺跡は、これまで旧江戸崎町内には周知されていなかった。しかし、昭和59年に榎の古台墳群（7）から弥生時代後期の住居跡が確認され、さらに大日山古墳群（8）、思川遺跡（9）とその後も報告例が増加し、弥生時代の様相も徐々に明らかになっている⁴⁾。

古墳時代の遺跡は、多くの古墳や集落跡が確認されている。後期の水神峯古墳⁵⁾（10）では、内部朱塗りの石棺が出土し、副葬品として直刀、鉄鏃、刀子などの鉄器が出土している。榎の古台墳群⁶⁾では、7基中6基の調査が行われており、後期古墳とされている。また、中峰遺跡（1）内にある中峰古墳や見晴塚古墳（11）や豆葉師遺跡（12）のように単独の古墳も多く確認されている。池平遺跡（13）や秋平遺跡⁷⁾（14）のほか、二の宮貝塚（15）、大日山古墳群、思川遺跡などでは、住居跡が多数検出されている。二の宮貝塚や大日山古墳群からは、有孔円板、剣形品などの石製模造品や土製勾玉、球状土鍾、管状土鍾などの土製品が出土しており、当時の集落の様相を知るうえで貴重な資料となっている。

江戸崎は、中世信太庄と呼ばれる荘園に含まれており⁸⁾、城館遺跡は、江戸崎城跡（16）御城遺跡（17）、大塚遺跡（18）、羽賀城跡（19）、二重堀遺跡（20）などが知られている。南北朝時代末期には山内上杉氏の

支配下に置かれ、やがてその被官である土岐原氏・白田氏が当地に赴任する。土岐原氏は7代約200年にわたって当地方を支配し、江戸崎城を本拠に霞ヶ浦対岸の行方一帯まで勢力を有した常南の地頭領主として知られている。しかし、北条氏と手を結んだため、1590年には豊臣秀吉の関東平定の余波を受けて、江戸崎城を明け渡す。その後、佐竹義宣の弟芦名盛重が城主となるが、1602年に徳川家康によって秋田角館に移封となる。盛重が秋田移封後に青山忠俊が城主となるが、まもなく江戸崎城は廃城となった。

※ 文中の〈 〉内の番号は、第1図及び表1の該当遺跡番号と同じである。

註

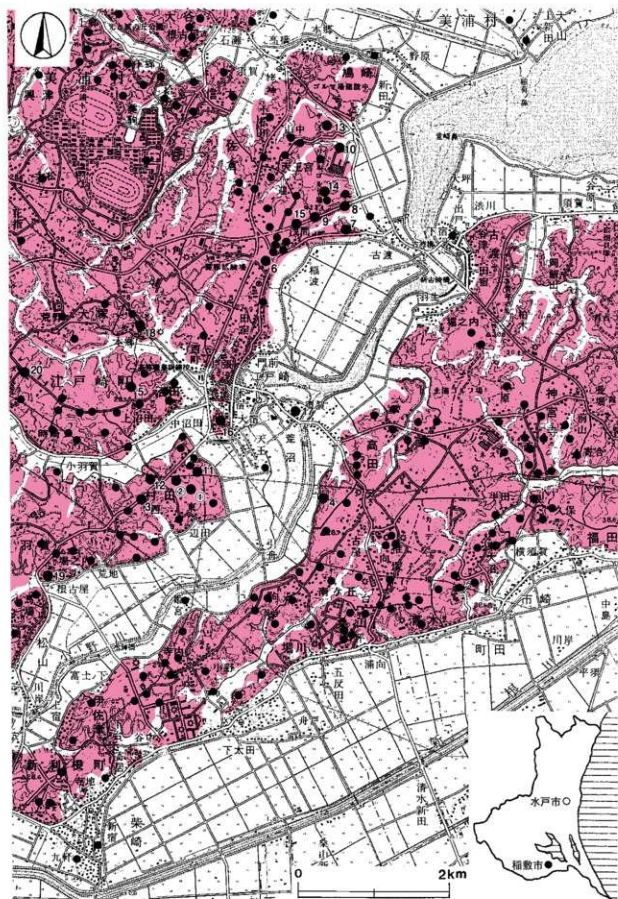
- 1) 蜂須紀夫ほか『茨城県 地学のガイド』コロナ社 1977年8月
- 2) 江戸崎町史編さん委員会『江戸崎町史』江戸崎町 1997年3月
- 3) 茨城県史編集委員会『茨城県史料=考古資料編 先土器・縄文時代』茨城県 1979年3月
- 4) 鈴木美治「二の宮貝塚 大日山古墳群 思川遺跡 一般県道新川江戸崎線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書」
『茨城県教育財団文化財報告』第65集 1991年3月
- 5) 関宮正光『郡宮古墳群1・2号墳 水神峯古墳』江戸崎町教育委員会 2000年10月
- 6) 関宮正光ほか『桶の台古墳群 第2・3次発掘調査報告書』江戸崎町教育委員会 2001年3月
- 7) 大賀健ほか『秋平遺跡・池平遺跡・中佐倉貝塚 ザ・インベリアル・ゴルフクラブ建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』
江戸崎町佐倉地区遺跡発掘調査会 1999年7月
- 8) 註2)と同じ

参考文献

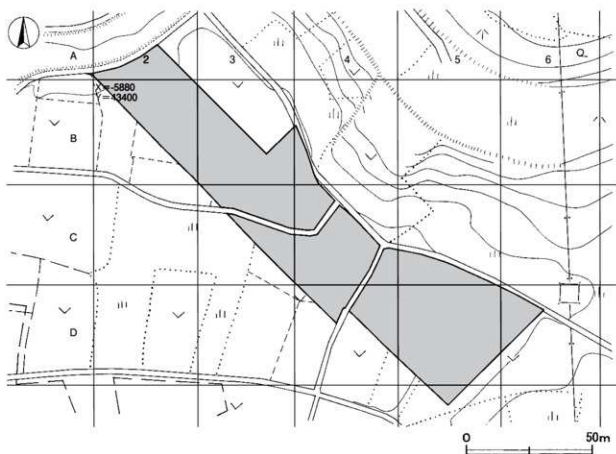
- ・茨城県教育庁文化課『茨城県遺跡地図(地名表編・地図編)』茨城県教育委員会 2002年3月

表1 中峰遺跡・見松遺跡周辺遺跡一覧表

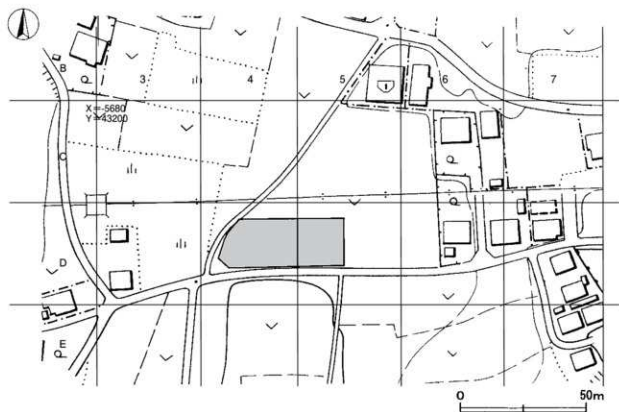
番 号	遺 跡 名	時 代					番 号	遺 跡 名	時 代						
		旧 石 器	縄 文	弥 生	古 墳	奈 ・ 平			中 世	近 世	旧 石 器	縄 文	弥 生	古 墳	奈 ・ 平
①	中 峰 遺 跡	○	○	○	○		11	見 晴 塚 古 墳				○			
②	見 松 遺 跡	○					12	豆 葉 師 遺 跡		○		○		○	
3	村 田 貝 塚	○		○		○	13	池 平 遺 跡				○	○		
4	椎 塚 貝 塚	○					14	秋 平 遺 跡	○		○	○	○	○	
5	沼 田 貝 塚	○					15	二 の 宮 貝 塚				○	○	○	○
6	吹 上 貝 塚	○	○				16	江 戸 崎 城 跡						○	○
7	桶 の 台 古 墳 群			○	○	○	17	御 城 遺 跡							○
8	大 日 山 古 墳 群	○	○	○		○	18	犬 塚 遺 跡							○
9	思 川 遺 跡	○	○	○	○		19	羽 賀 城 跡							○
10	水 神 峯 古 墳			○			20	二 重 堀 遺 跡							○



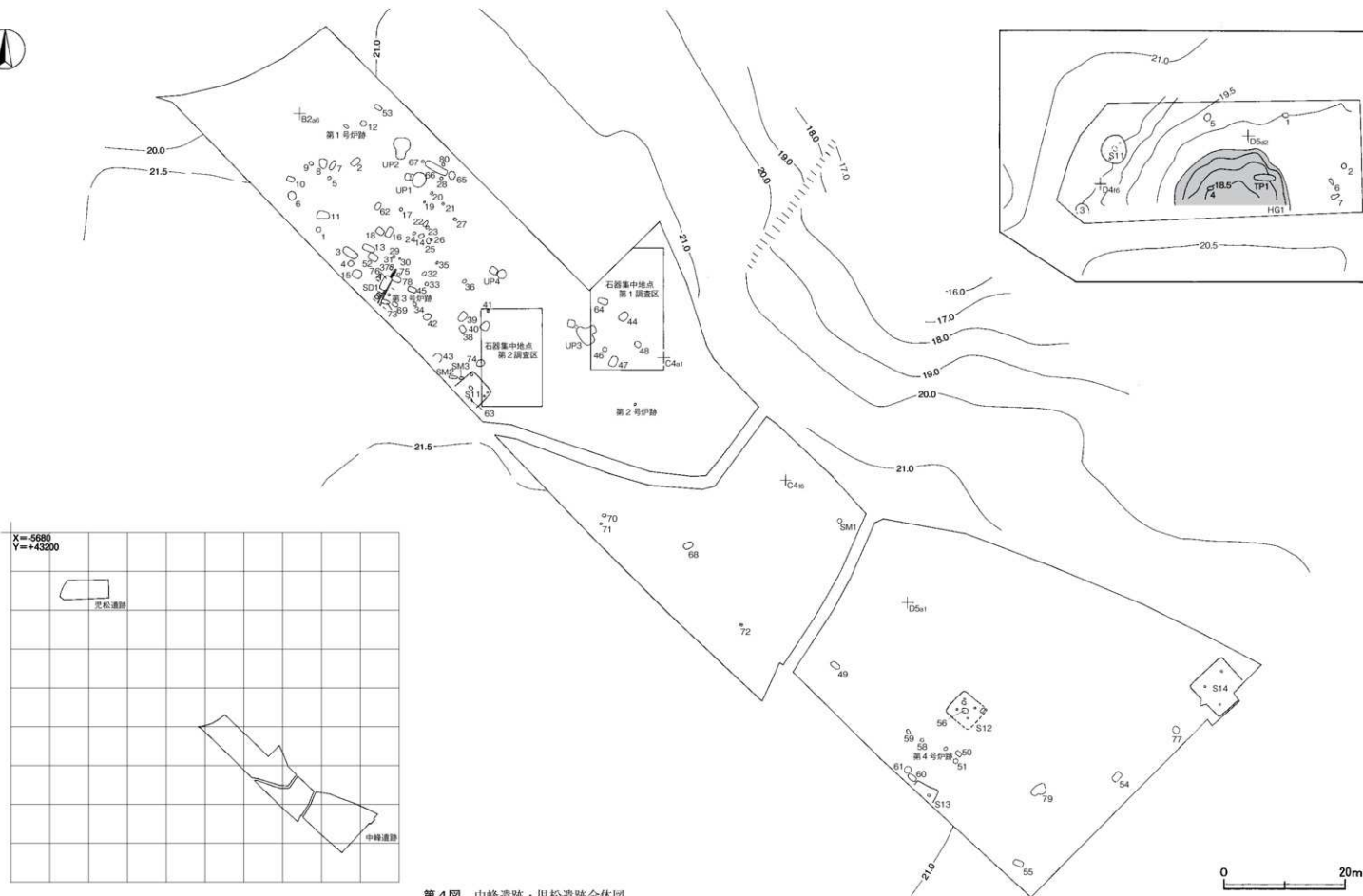
第1図 中峰遺跡・見松遺跡周辺遺跡分布図（国土地理院5万分の1「佐原」）



第2図 中峰道跡調査区設定図



第3図 見松道跡調査区設定図



第4図 中峰道跡・見松道跡全体図

第3章 中 峰 遺 跡

第1節 遺 跡 の 概 要

中峰遺跡は茨城県稲敷市江戸崎乙795番地ほかに所在し、標高約20～21mの沼里川と小野川に挟まれた舌状台地上に立地している。調査面積は6,706㎡で、調査前の現況は畑地である。

調査の結果、旧石器時代の石器集中地点5か所、炭化物・焼土集中地点4か所、縄文時代の土坑2基、古墳時代の住居跡4軒、中世の地下式坑4基、土坑墓1基、火葬土坑3基、時期不明の竈跡4基、土坑墓2基、地点貝塚3か所、土坑71基及び溝跡1条が確認されている。遺物は、遺物収納コンテナ（60×40×20cm）に6箱出土している。主な遺物は、縄文土器片、弥生土器片、古墳時代の土師器片（坏・高坏・器台・壺・甕）、須恵器片（坏・蓋・甕）、土師質土器片（小皿）、陶器片（襦袢・灯明皿）、磁器片、瓦質土器片、土製品（球状土錘・管状土錘・炉石形土製品）、石器（ナイフ形石器・彫器）、中世の古銭（開元通寶）、貝（ヤマトシジミ・カワナナ）などである。

第2節 基本層序

基本層序を確認するテストピットは、調査区北西部のB2h6区に設置した。地表面の標高は21.0mで、地表面から2.3mほど掘削し、基本土層図は第4図に示した。土層は9層に分層され、第1層が表土、第2～8層が関東ローム層、第9層が常総粘土層に対比される。以下、テストピットの観察から各層の特徴を述べる。

第1層は暗褐色の耕作土層で、ローム小ブロックを含む。粘性・締まりは弱く、層厚は10～55cmである。

第2層は褐色のハードローム層で、赤色スコリア・ガラス質粒子を微量含んでおり、始良Tn火山灰（AT）を含む層に比定される。粘性、締まりはともに強い。層厚は20～35cmである。

第3層は褐色のハードローム層で、黒色粒子を微量含む。粘性、締まりはともに強い。層厚は20～25cmで、第2黒色帯の上部に相当すると考えられる。

第4層は褐色のハードローム層で、黒色粒子を微量含む。粘性、締まりはともに強い。層厚は25～35cmで、第2黒色帯の下部に相当すると考えられる。

第5層は褐色のハードローム層で、粘性が強く、締まりは極めて強い。層厚は10～15cmである。

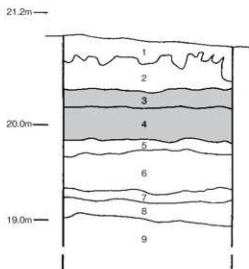
第6層は褐色のハードローム層で、粘性が強く、締まりは極めて強い。層厚は30～42cmである。

第7層は灰褐色のハードローム層で、黒色粒子を微量含む。粘性が極めて強く、締まりは強い。層厚は10～15cmである。

第8層はにぶい黄褐色のハードローム層で、赤色スコリアを微量含む。粘性・締まりともに極めて強い。層厚は15～25cmである。

第9層以下は灰白色の常総粘土層で、粘性が極めて強く、締まりは強い。層厚は未掘のため、不明である。

なお、遺構は、第2層上面で確認した。



第5図 基本土層図

第3節 遺構と遺物

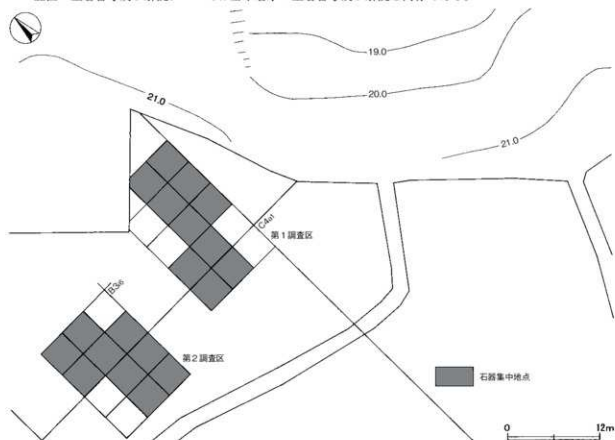
1 旧石器時代の石器集中地点と遺物

(1) 調査の概要 (第6図)

2か所の調査区はさほど離れていないが、出土地点によって石器等の石材が異なるため、複数の文化層があることも想定して2か所に分けて調査を行った。第1・2調査区ともにB3・C3区、標高21mほどの台地の縁辺部に位置している。第1調査区は調査面積が約228㎡で、南北約20m、東西約12mの範囲で110点の石器、剥片が確認され、第2調査区は調査面積が約192㎡で、南北約16m、東西約12mの範囲で249点の石器、石核、剥片の分布が確認された。

(2) 石器集中地点の記載方法

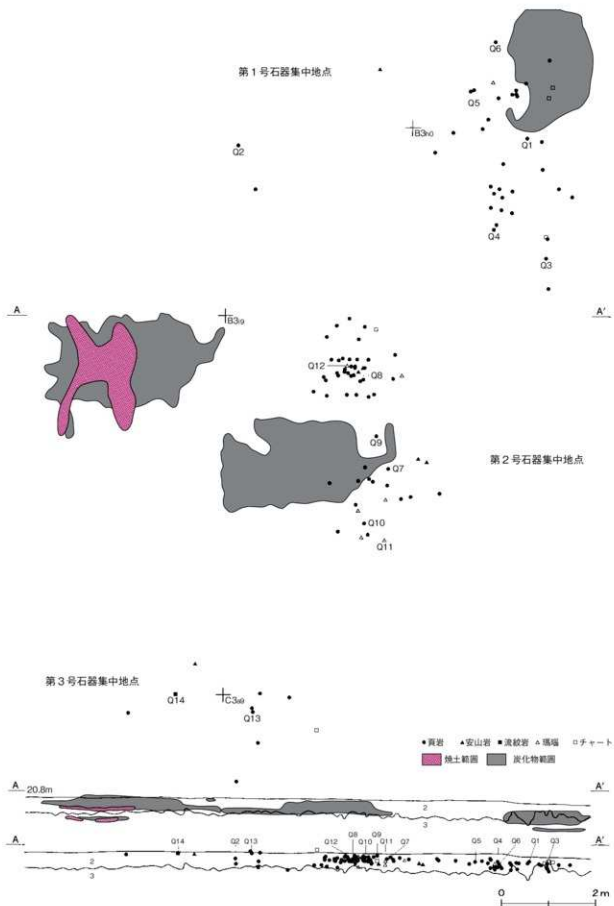
2か所の調査区から出土した石器や剥片等の総数は359点で、石材の構成や出土範囲から石器集中地点は5か所に分けられる。出土品のうち、実測図未掲載の資料については一覧表に記載した。記載内容は「集中地点」「番号(調査時の番号)」「遺物番号(本報告の番号)」「重量」「材質」「出土位置」で、「出土位置」は小グリッド北西角、C4a1を基準にしてX(南北)、Y(東西)への距離であり、Zは標高である。調査区の土層番号及び解説については基本層序の土層番号及び解説と同様である。



第6図 石器集中地点調査区設定図

(3) 石器集中地点・炭化物集中地点

第1調査区で確認された石器集中地点をそれぞれ第1・2・3号石器集中地点、第2調査区で確認された石器集中地点をそれぞれ第4・5号石器集中地点、また、炭化物及び焼土が集中した地点を炭化物・焼土集中地点とし、その特徴と出土した石器、炭化物及び焼土集中地点について記述する。



第1号石器集中地点（第7～9図）

位置 第1調査区北部のB3h0区を中心とした標高21mほどの台地縁部に位置している。

遺物出土状況 出土した40点は、おおよそ南北約7m、東西約8mの範囲で出土している。垂直分布は標高20.2～20.5mで、基本層序の第2～3層に相当する。

遺物 頁岩製の影器1点、剥片39点（瑪瑙1、チャート3、頁岩34、安山岩1）が出土している。頁岩の剥片は5g以下が30点出土し、うち1g以下の破片が22点である。

所見 頁岩は、10gを超えるQ1・Q2のような剥片が出土していることや、1g未満の破片の出土割合が高いことから、頁岩を用いた小規模な加工作業を行った地点と考えられる。

第2号石器集中地点（第7～9図）

位置 第1調査区中央部のB3h9区を中心とした標高21mほどの台地縁部に位置している。

遺物出土状況 出土した60点は、おおよそ南北約5m、東西約4mの範囲で出土している。垂直分布は標高20.3～20.5mで、基本層序の第2～3層に相当する。

遺物 剥片60点（瑪瑙6、チャート1、頁岩49、安山岩4）が出土しているが、石核や製品は出土していない。出土量の多い頁岩は、5g以下の剥片が45点で、うち1g以下の破片が34点である。

所見 頁岩の破片の出土割合が高く、頁岩を用いた小規模な加工作業を行った地点と考えられる。第1号石器集中地点と出土した石材や破片の割合が類似しており、関連が想定される。

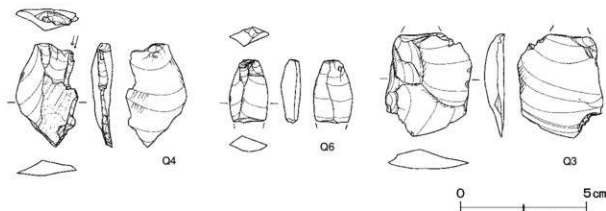
第3号石器集中地点（第7～9図）

位置 第1調査区南部のC3a9区を中心とした標高21mほどの台地縁部に位置している。

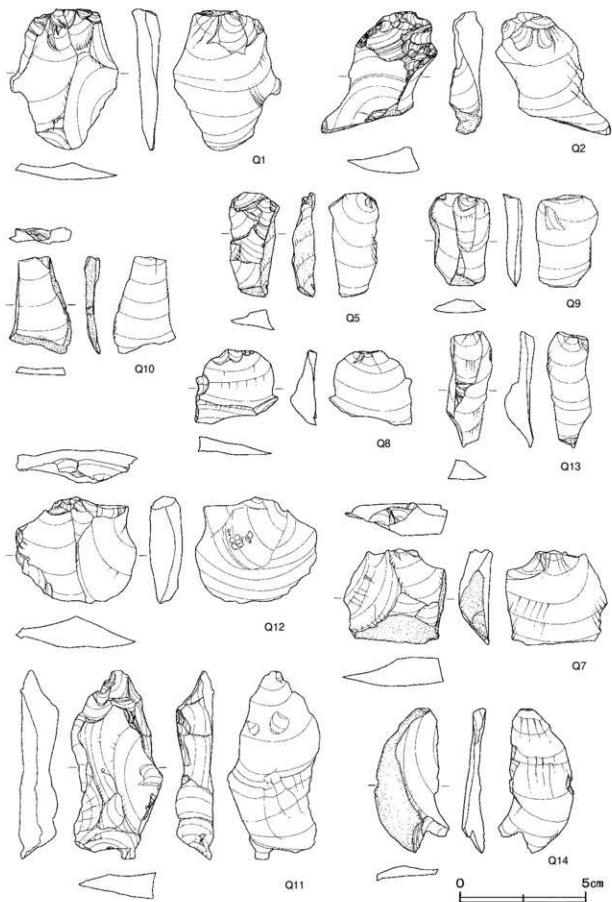
遺物出土状況 出土した10点は、おおよそ南北約3m、東西約4mの範囲で出土している。垂直分布は標高20.2～20.7mで、基本層序の第2～3層に相当する。

遺物 剥片10点（チャート1、頁岩7、流紋岩1、安山岩1）が出土している。チャートの出土割合が高いものの、全体的な出土量は少ない。5g以上の剥片出土量は5点で、ほかの集中地点と大差はないが、1g以下の破片の出土量3点と少ない。Q14は母岩から薄く剥がした荒削り工程段階のものと考えられる。

所見 頁岩を主体とする点は、隣接する第1・2号石器集中地点と類似している。出土した剥片の量は少ないため明確ではないが、不要物を投棄した地点の可能性がある。



第8図 第1号石器集中地点出土遺物実測図



第9图 第1·2·3号石器集中地点出土遺物実測図

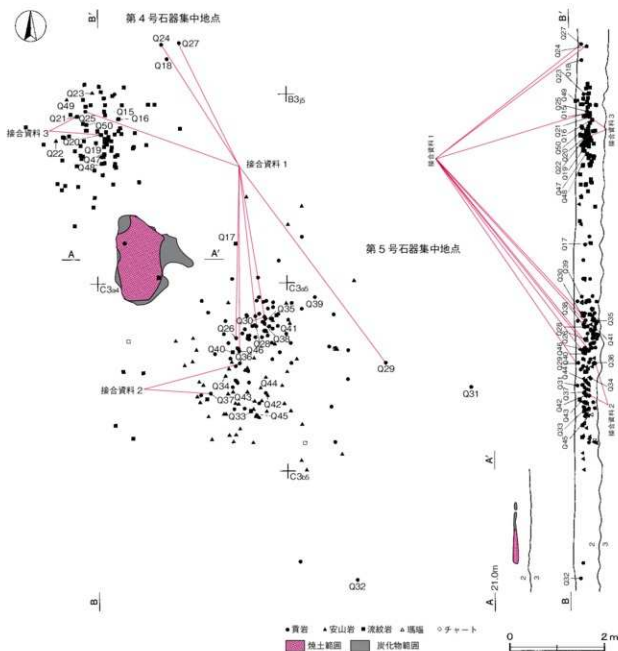
第4号石器集中地点（第10～14図）

位置 第2調査区北部のB3j4区を中心とした標高21mほどの台地縁辺部に位置している。

遺物出土状況 出土した88点は、おおそ南北4m、東西5mの範囲で出土している。垂直分布は標高20.4～20.7mで、基本層序の第2層に相当する。

遺物 流紋岩製のナイフ形石器2点、剥片86点（頁岩7、流紋岩76、安山岩3）が出土している。接合する資料は、頁岩製のQ24・Q25・Q27は第5号石器集中地点出土石核のQ26と剥片のQ28～Q30・Q46、流紋岩のQ20・Q21である。

所見 流紋岩が総量の約90%を占めており、主体となる石材がほかの地点と異なる。流紋岩は1g以下の碎片が59点と多く、製品も出土していることから、石器製作を行った地点の可能性が高い。また、頁岩製の接合資料1から、第5号石器集中地点との関連が想定される。



第10図 第2調査区実測図（第4・5号石器集中地点）

第5号石器集中地点（第10・12～15図）

位置 第2調査区中央部のC3a4区、標高21mほどの台地縁辺部に位置している。

遺物出土状況 出土した161点の石器は、おおよそ南北約9m、東西約8mの範囲で出土している。垂直分布は標高20.4～20.8mで、基本層序の第2層に相当する。

遺物 ナイフ形石器4点（頁岩2、流紋岩1、安山岩1）、頁岩製の彫器1点、石核3点（頁岩1、流紋岩1、安山岩1）のほか、剥片153点（瑪瑙1、チャート3、頁岩81、流紋岩8、安山岩60）が出土している。接合資料はいずれも頁岩で、Q36・Q37のほか、石核Q26と剥片Q28～Q30・Q46が第4号石器集中地点のQ24・Q25・Q27と接合する。

所見 当地点では頁岩に加え、安山岩も多く出土しており、ナイフ形石器のほか、石核、剥片、碎片が出土していることから、石器製作が行われた地点と考えられる。また、第4号石器集中地点と隣接しており、接合が認められることから関連が想定される。

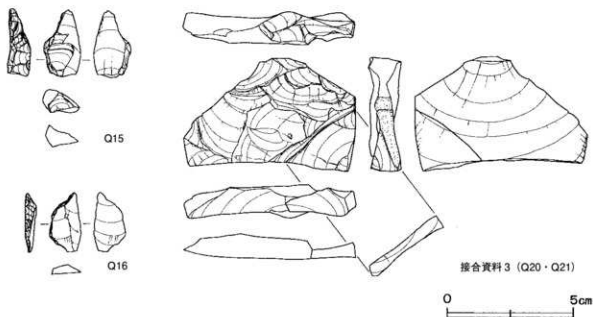
炭化物・焼土集中地点（第7・10図）

位置 B3・C3区の第1・2調査区内、標高21mほどの台地縁辺部に位置している。

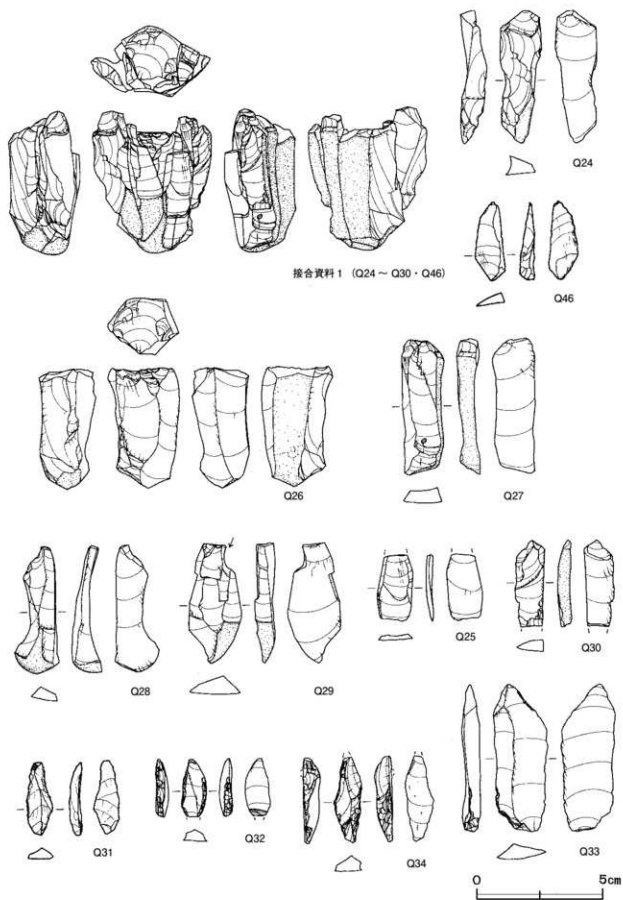
確認状況 旧石器時代の調査区内を掘り下げ、炭化物がまばらに広がっている範囲を4か所確認した。それらは長径が1.9～3.8mほどの不定形で、炭化物集中地点と重なるように焼土の集中地点も2か所確認された。

遺物出土状況 炭化物のほとんどが1cm未満である。確認できた出土レベルは20.0～20.7mで、基本層序の第2層から第3層上層部にあたる。焼土の出土レベルは20.2～20.5mで、炭化物のレベルとはほぼ一致する。

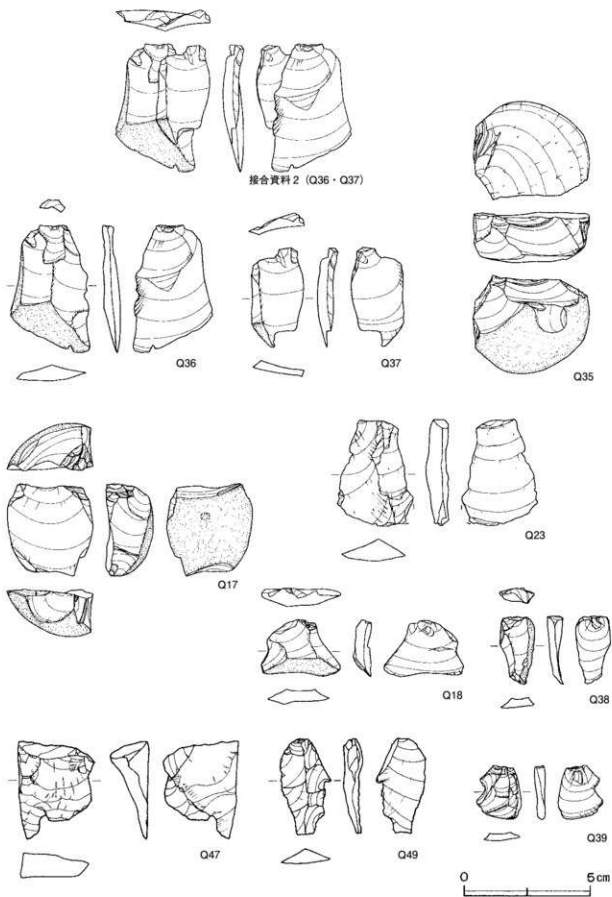
所見 土層中に焼土が赤変硬化した範囲は確認できず、が跡を想定することは困難である。小規模な焚火跡からの拡散したものと考えられ、石器集中地点と出土レベルが一致することから、関連が想定される。時期は、出土層位から後期旧石器時代下総編年Ⅱa期からⅡb期に相当するが、詳細は明確ではない。



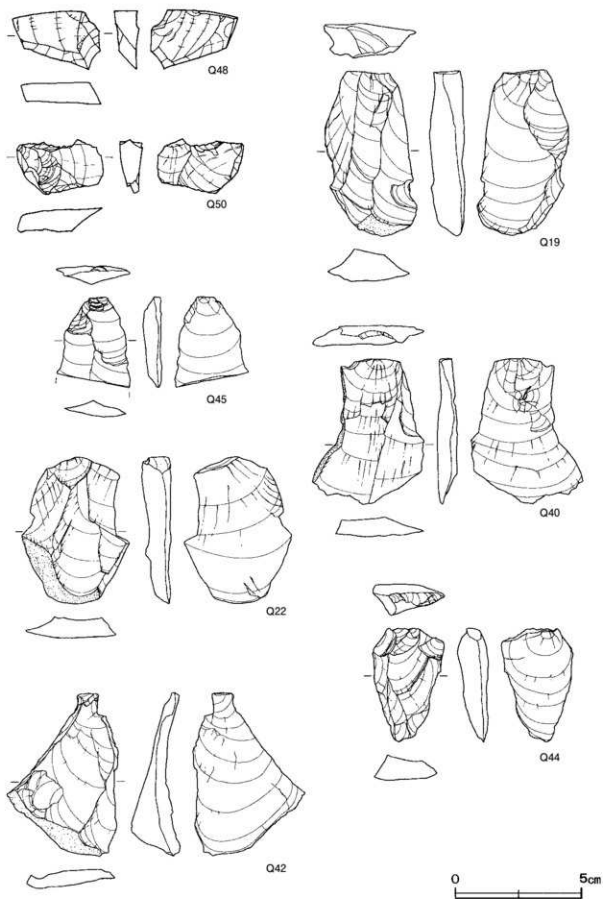
第11図 第4号石器集中地点出土遺物実測図



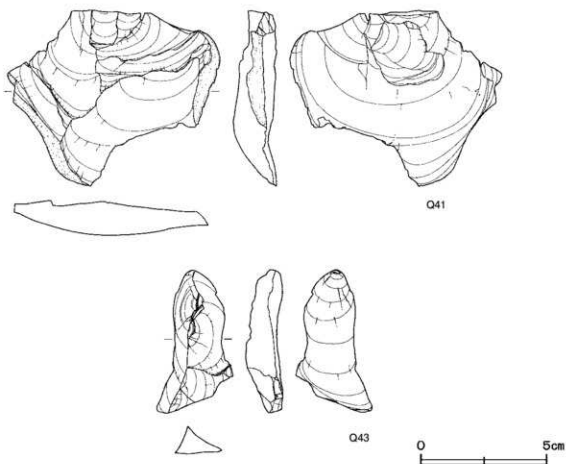
第12図 第4・5号石器集中地点出土遺物実測図(1)



第13図 第4・5号石器集中地点出土遺物実測図(2)



第14图 第4·5号石器集中地点出土遗物实测图(3)



第15図 第5号石器集中地点出土遺物実測図

第1～5号石器集中地点出土遺物観察表 (第11～15図)

番号	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	材質	特徴	接合資料	備考
Q 1	剥片	5.6	4.3	1.2	14.1	頁岩	縦長剥片。背面は多方向の剥離痕。打面は縦剥離面。		PL4
Q 2	剥片	4.8	4.6	1.3	16.6	頁岩	横長剥片。上下両面に横面打面を残す。背面は多方向の剥離面。		PL4
Q 3	微細剥離痕を有する剥片	4.1	3.4	0.8	9.2	頁岩	縦長剥片。背面は多方向からの剥離痕。基部右側縁に微細剥離痕。打面は切断されている。		PL4
Q 4	彫器	4.1	2.5	0.9	6.4	頁岩	打面から一側縁に垂直方向の櫛状剥離痕を加え、彫削面をつくり出す。打面は縦剥離面。		PL4
Q 5	剥片	4.1	2.0	0.9	5.2	頁岩	縦長剥片。背面は多方向からの剥離痕。底面に擦面を残す。打面は縦剥離面。		PL4
Q 6	剥片	2.5	1.6	0.8	2.3	頁岩	縦長剥片。石片状。左側縁に微細剥離痕。背面は同一方向からの剥離痕。打面は半剥離面。		PL4
Q 7	剥片	3.8	4.1	1.3	17.2	頁岩	横長剥片。背面は多方向からの剥離痕。側面に擦面を残す。打面は縦剥離面。		PL4
Q 8	微細剥離痕を有する剥片	3.0	3.3	1.0	3.8	頁岩	縦長剥片。側縁に微細剥離痕。打面は半剥離面。		PL4
Q 9	剥片	3.7	2.5	0.8	5.4	頁岩	縦長剥片。背面は同一方向からの剥離痕。擦面を残す。打面は半剥離面。		PL4
Q10	剥片	3.9	2.5	0.7	3.1	頁岩	縦長剥片。背面は同一方向からの剥離痕。擦面を残す。右側縁に微細剥離痕。打面は縦剥離面。		PL4
Q11	剥片	7.5	3.7	1.5	34.7	瑪瑙	打面再生剥片。打面と剥離面を残す。		PL4
Q12	剥片	4.2	4.9	1.3	24.2	瑪瑙	横長剥片。背面は多方向からの剥離痕。打面は縦剥離面。		PL4
Q13	微細剥離痕を有する剥片	4.6	1.8	1.2	5.6	頁岩	縦長剥片。右側縁に微細剥離痕。石片状。打面は半剥離面。		PL4
Q14	剥片	5.7	3.0	0.9	6.8	流紋岩	縦長剥片。背面に大きく擦面を残す。		PL4
Q15	ナイフ形石器	2.7	1.5	0.9	2.6	流紋岩	縦長剥片を素材とし、一側縁に両面からブラントニングを施す。下部欠損。		PL5
Q16	ナイフ形石器	2.4	1.3	0.5	1.0	流紋岩	縦長剥片を素材とし、一側縁に縦面からブラントニングを施す。		PL5

番号	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	材質	特徴	接合資料	備考
Q17	石核	3.7	3.4	1.9	21.1	流紋岩	上下に打面を設ける 大きく礫面を残す		PL5
Q18	剥片	2.2	3.2	0.7	3.8	頁岩	楕長剥片 背面に多方向からの剥離痕と礫面を残す 打面は複剥離面		PL5
Q19	剥片	5.8	4.4	0.8	32.8	流紋岩	楕長剥片 背面は同一方向からの剥離痕と礫面を残す 打面は単剥離面		PL5
Q20	剥片	4.1	6.9	1.0	30.4	流紋岩	楕長剥片 下部を切断 背面に多方向からの剥離痕 打面は複剥離面 Q21と接合 礫面に礫面を残す	接合資料 3	PL6
Q21	剥片	2.4	2.7	0.6	4.9	流紋岩	楕長剥片 Q20から切断 礫面に礫面を残す	接合資料 3	PL6
Q22	剥片	5.8	4.3	1.2	23.5	頁岩	楕長剥片 背面は多方向からの剥離痕と礫面を残す 打面は複剥離面		PL5
Q23	二次加工を有する剥片	4.2	3.0	0.9	9.1	安山岩	楕長剥片 背面に同一方向からの剥離痕と礫面を残す 打面は単剥離面		PL5
Q24	剥片	5.3	1.7	1.1	5.8	頁岩	楕長剥片 背面に多方向からの剥離痕と礫面を残す 打面は複剥離面	接合資料 1	PL6
Q25	剥片	2.7	1.5	0.3	1.1	頁岩	楕長剥片 背面に同一方向からの剥離痕と礫面を残す 打面付付近を下部から切断	接合資料 1	PL6
Q26	石核	4.8	2.8	2.3	33.0	頁岩	五角柱状で上面及び下面が礫面と礫面を残す 打面は複剥離面	接合資料 1	PL6
Q27	剥片	5.4	1.7	0.9	8.5	頁岩	楕長剥片 背面に同一方向からの剥離痕と礫面を残す 打面は複剥離面	接合資料 1	PL6
Q28	剥片	5.0	1.8	1.2	6.3	頁岩	楕長剥片 背面に同一方向からの剥離痕と礫面を残す 打面は複剥離面	接合資料 1	PL6
Q29	彫器	4.8	2.1	0.8	5.9	頁岩	楕長剥片 背面に同一方向からの剥離痕と礫面を残す 打面は単剥離面 下部から一箇縁に垂直方向の線状剥離痕を加える	接合資料 1	PL6
Q30	微細剥離痕を有する剥片	3.4	1.2	0.5	1.9	頁岩	楕長剥片 背面に同一方向からの剥離痕 右側縁は礫面両端を切断	接合資料 1	PL6
Q31	ナイフ形石器	2.9	1.1	0.6	1.3	頁岩	楕長剥片を素材とし、二箇縁に礫面からフランチングを施す 刃部に微細剥離痕		PL5
Q32	ナイフ形石器	2.3	1.0	0.5	1.2	頁岩	楕長剥片を素材とし、二箇縁に礫面からフランチングを施す 刃部欠損		PL5
Q33	ナイフ形石器	5.8	2.2	0.8	5.8	流紋岩	楕長剥片を素材とし、二箇縁のふち縁に微細剥離痕を加える 基部付近に礫面から剥離痕を残す		PL5
Q34	ナイフ形石器	3.4	1.1	0.7	2.2	安山岩	楕長剥片を素材とし、二箇縁に礫面からフランチングを施す 先端部欠損		PL5
Q35	石核	4.6	3.9	2.0	47.2	安山岩	小円礫を素材とし、分面を打面として礫面 小形の楕長剥片を連続して剥離		PL5
Q36	二次加工を有する剥片	5.1	3.2	0.7	7.8	頁岩	楕長剥片 背面に同一方向からの剥離痕と礫面を残す 打面に剥離痕 打面は単剥離面	接合資料 2	PL6
Q37	剥片	3.9	2.1	0.8	2.5	頁岩	楕長剥片 背面に同一方向からの剥離痕と礫面を残す 打面は単剥離面 Q26と接合	接合資料 2	PL6
Q38	剥片	2.7	1.4	0.6	1.6	頁岩	楕長剥片 背面に同一方向からの剥離痕 打面は複剥離面		PL5
Q39	剥片	2.2	1.8	0.4	1.4	頁岩	楕長剥片 背面に多方向からの剥離痕 打面は単剥離面		PL5
Q40	剥片	6.5	3.7	1.4	16.5	流紋岩	楕長剥片 背面に同一方向からの剥離痕と礫面を残す 打面は複剥離面		PL5
Q41	剥片	7.0	8.5	1.7	69.8	安山岩	楕長剥片 背面に同一方向からの剥離痕と礫面を残す 打面は礫面		PL5
Q42	剥片	6.5	4.5	1.9	23.4	安山岩	楕長剥片 背面に同一方向からの剥離痕と礫面を残す 打面は礫面		PL5
Q43	剥片	5.7	3.1	1.5	14.3	安山岩	楕長剥片 背面に多方向からの剥離痕 打面は単剥離面		PL5
Q44	剥片	4.5	2.9	1.2	12.9	安山岩	楕長剥片 背面に多方向からの剥離痕 打面は複剥離面		PL5
Q45	剥片	3.6	2.9	0.7	5.6	馬場	楕長剥片 背面に同一方向からの剥離痕 打面は単剥離面 下部切断		PL5
Q46	二次加工を有する剥片	3.1	1.2	0.6	1.3	頁岩	楕長剥片 背面に同一方向からの剥離痕と礫面を残す 打面は複剥離面 打面の上面に剥離痕を残す 背面から調整を施す Q24と接合	接合資料 1	PL6
Q47	二次加工を有する剥片	3.9	3.0	1.6	10.6	流紋岩	楕長剥片 礫面中央部で切断後 打面から調整を施す 打面は複剥離面		PL5
Q48	剥片	2.3	1.0	0.9	8.0	流紋岩	切断された剥片 一箇縁に礫面を残す		PL5
Q49	剥片	4.3	2.0	0.8	3.9	安山岩	楕長剥片 背面に多方向からの剥離痕		PL5
Q50	剥片	2.1	3.4	0.9	6.6	流紋岩	楕長剥片 背面に多方向からの剥離痕		PL5

表2 第1・2・3号石器集中地点における石器出土位置

集中地点 (SS)	番号	遺物	重量 (g)	材質	X (m)	Y (m)	Z (m)
1	37	0.1 未満	10.232	頁岩	-1.900	20.402	
1	38	0.1 未満	10.695	頁岩	-1.875	20.374	
1	39	0.1 未満	10.733	頁岩	-0.892	20.343	
1	40	0.4	10.573	頁岩	-0.585	20.368	
1	41	0.3	11.140	頁岩	-1.258	20.384	
1	42	0.3	11.732	頁岩	-1.240	20.359	
1	43	Q 1	14.1	頁岩	-1.785	-1.565	20.444
1	44	2.6	12.180	頁岩	-2.389	20.490	
1	45	2.1	12.621	頁岩	-2.182	20.361	
1	46	Q 5	5.2	頁岩	-2.802	-2.705	20.473
1	47	0.1	12.961	瑪瑙	-2.277	20.388	
1	48	Q 6	2.3	頁岩	-13.821	-2.243	20.453
1	49	0.1 未満	12.776	頁岩	-2.765	20.405	
1	62	0.1 未満	11.908	頁岩	-4.868	20.487	
1	63	0.1 未満	11.975	頁岩	-3.482	20.472	
1	64	0.1 未満	10.633	頁岩	-3.720	20.500	
1	65	0.1 未満	10.288	頁岩	-3.883	20.353	
1	66	0.5	9.962	頁岩	-3.784	20.316	
1	67	0.3	10.735	頁岩	-3.837	20.367	
1	68	0.1	10.344	頁岩	-3.655	20.424	
1	69	Q 4	6.4	頁岩	9.830	-3.734	20.316
1	73	0.1 未満	12.666	頁岩	-2.200	20.413	
1	74	1.3	12.789	頁岩	-2.194	20.410	
1	75	1.2	11.467	頁岩	-4.471	20.495	
1	76	3.4	12.952	頁岩	-2.404	20.387	
1	77	0.4	12.644	++-	-2.874	20.451	
1	78	0.1 未満	12.842	++-	-2.997	20.437	
1	87	0.8	10.689	頁岩	-7.327	20.484	
1	88	Q 2	16.6	頁岩	11.620	-7.701	20.520
1	89	0.2	13.436	頁岩	-1.082	20.319	
1	90	Q 3	9.2	頁岩	9.228	-1.160	20.317
1	91	0.5	12.683	頁岩	-1.812	20.347	
1	92	0.1 未満	11.242	頁岩	-2.061	20.326	
1	93	0.1	10.759	頁岩	-2.317	20.352	
1	94	0.7	10.541	頁岩	-2.099	20.354	
1	95	3.8	9.697	頁岩	-1.133	20.402	
1	96	1.5	8.616	頁岩	-1.099	20.236	
1	99	0.1 未満	9.702	++-	-1.147	20.401	
1	102	0.1	12.720	頁岩	-1.875	20.269	
1	103	3.6	13.221	安山岩	-4.691	20.432	
2	1	0.9	3.903	瑪瑙	5.138	20.554	
2	2	Q 10	3.1	頁岩	3.660	-5.003	20.564
2	3	Q 11	34.7	瑪瑙	3.309	-4.577	20.453
2	4	0.2	3.406	頁岩	-4.943	20.522	
2	5	0.1	3.367	瑪瑙	-5.080	20.358	
2	6	0.1 未満	3.479	頁岩	-5.560	20.363	
2	7	0.5	4.293	頁岩	-3.453	20.455	
2	8	1.7	4.937	安山岩	-3.724	20.517	
2	9	2.2	5.008	安山岩	-3.910	20.526	
2	10	4.9	6.747	瑪瑙	-4.229	20.461	
2	11	1.1	6.705	頁岩	-4.375	20.436	
2	12	0.2	6.367	頁岩	-4.800	20.567	
2	13	0.2	6.345	頁岩	-4.918	20.570	
2	14	0.2	6.350	頁岩	-5.199	20.454	
2	15	0.1 未満	6.359	頁岩	-5.413	20.561	

集中地点 (SS)	番号	遺物	重量 (g)	材質	X (m)	Y (m)	Z (m)	
2	16	0.1 未満	頁岩	6.333	-5.823	20.562		
2	17	0.1 未満	頁岩	6.651	-5.852	20.488		
2	18	0.1 未満	頁岩	6.794	-5.605	20.486		
2	19	0.1 未満	頁岩	6.839	-5.394	20.526		
2	20	1.9	頁岩	6.747	-5.312	20.450		
2	21	Q 8	3.8	頁岩	6.797	-5.274	20.505	
2	22	0.1	安山岩	6.834	-5.166	20.572		
2	23	0.1 未満	頁岩	6.654	-5.120	20.505		
2	24	4.9	頁岩	6.925	-5.039	20.578		
2	25	0.1 未満	安山岩	7.059	-4.917	20.472		
2	26	0.1 未満	頁岩	7.123	-5.192	20.480		
2	27	0.8	頁岩	6.943	-5.243	20.575		
2	28	Q 12	24.2	瑪瑙	6.967	-5.369	20.573	
2	29	0.1	頁岩	7.100	-5.355	20.521		
2	30	0.1 未満	頁岩	7.102	-5.578	20.520		
2	31	0.1 未満	頁岩	7.110	-5.731	20.471		
2	32	0.3	頁岩	7.602	-5.833	20.502		
2	33	3.2	頁岩	7.806	-5.624	20.323		
2	34	0.7	頁岩	7.544	-5.146	20.474		
2	35	1.4	頁岩	7.735	-5.020	20.462		
2	36	1.5	頁岩	7.223	-4.371	20.498		
2	30	0.1 未満	頁岩	6.959	-5.231	20.524		
2	51	0.1 未満	頁岩	6.919	-5.430	20.487		
2	52	0.1 未満	頁岩	6.956	-5.319	20.472		
2	53	0.1 未満	頁岩	6.684	-5.061	20.474		
2	54	0.1 未満	頁岩	6.779	-5.613	20.460		
2	55	0.1 未満	頁岩	6.857	-5.459	20.448		
2	56	0.3	頁岩	7.131	-5.506	20.443		
2	57	1.8	頁岩	7.097	-5.034	20.410		
2	58	0.1 未満	頁岩	6.741	-6.088	20.388		
2	59	0.1 未満	頁岩	7.980	-6.684	20.410		
2	60	Q 9	5.4	頁岩	5.497	-5.249	20.602	
2	61	0.2	++-	7.726	-5.228	20.448		
2	79	8.3	頁岩	4.531	-5.136	20.491		
2	80	9.5	頁岩	5.809	-6.970	20.495		
2	81	Q 7	17.2	頁岩	4.792	-5.497	20.583	
2	82	3.9	頁岩	4.430	-5.446	20.511		
2	83	0.4	頁岩	4.135	-5.743	20.534		
2	84	0.1 未満	頁岩	4.177	-5.943	20.518		
2	85	0.5	頁岩	4.034	-6.790	20.542		
2	86	0.9	頁岩	4.532	-4.871	20.492		
2	97	1.5	瑪瑙	4.147	-4.585	20.384		
2	98	0.4	頁岩	4.555	-4.925	20.472		
2	100	2.1	頁岩	4.481	-5.787	20.355		
2	101	0.5	頁岩	6.415	-6.144	20.386		
3	105	7.0	頁岩	0.033	-7.245	20.663		
3	106	Q 13	0.1 未満	頁岩	0.274	-7.413	20.680	
3	107	Q 13	5.6	頁岩	0.326	-7.392	20.642	
3	109	0.1 未満	頁岩	-0.265	-10.034	20.368		
3	110	Q 14	6.8	流紋岩	0.027	-9.014	20.670	
3	111	3.6	安山岩	0.659	-8.614	20.624		
3	112	16.3	++-	0.731	-6.033	20.713		
3	113	14.6	頁岩	0.061	-6.637	20.288		
3	114	0.1 未満	頁岩	-1.036	-7.279	20.333		
3	115	1.2	頁岩	-1.849	-7.712	20.418		

表3 第4・5号石器集中地点における石器出土位置

集中地点 (SS)	番号	遺物	重量	材質	X (m)	Y (m)	Z (m)	
4	101	0.1	0.868	頁岩	-27.420	20.718		
4	135	4.1	流紋岩	2.921	-27.224	20.723		
4	136	1.2	流紋岩	2.028	-27.872	20.780		
4	137	Q 49	3.9	安山岩	3.884	-28.631	20.791	
4	138	0.4	流紋岩	3.277	-26.245	20.744		
4	139	0.3	流紋岩	3.781	-26.787	20.763		

集中地点 (SS)	番号	遺物	重量	材質	X (m)	Y (m)	Z (m)	
4	142	0.3	流紋岩	2.922	-26.956	20.731		
4	167	0.1	流紋岩	2.872	-27.244	20.670		
4	168	0.1	流紋岩	2.579	-27.609	20.690		
4	169	Q 47	10.6	流紋岩	2.744	-27.837	20.607	
4	170	Q 48	8.0	流紋岩	2.331	-27.884	20.680	
4	171	1.4	流紋岩	2.827	-27.716	20.676		

集中地点 (SS)	番号	地物 番号	重量	材質	X (m)	Y (m)	Z (m)	
4	172	0.3	流紋岩	3.022	-27.702	20.666		
4	173	1.0	流紋岩	3.115	-27.479	20.674		
4	174	0.5	流紋岩	3.169	-27.626	20.624		
4	175	0.1	流紋岩	3.223	-27.563	20.626		
4	176	0.1	流紋岩	3.329	-27.508	20.610		
4	177	0.4	流紋岩	3.738	-26.926	20.737		
4	178	1.6	流紋岩	3.977	-27.668	20.809		
4	179	0.1 未満	流紋岩	3.126	-28.598	20.742		
4	180	0.6	流紋岩	2.065	-28.408	20.721		
4	181	0.5	流紋岩	1.122	-28.462	20.777		
4	182	1.1	流紋岩	3.304	-29.509	20.690		
4	183	0.1 未満	流紋岩	2.082	-28.664	20.657		
4	184	Q 18	3.8	頁岩	4.731	-26.519	20.724	
4	185	Q 27	8.5	頁岩	5.060	-26.262	20.723	
4	187	Q 20	30.4	流紋岩	3.140	-27.934	20.582	
4	188	0.3	流紋岩	2.813	-28.472	20.656		
4	189	0.8	流紋岩	2.940	-29.132	20.658		
4	190	0.2	流紋岩	2.674	-27.881	20.591		
4	191	Q 22	23.5	安山岩	3.029	-28.865	20.626	
4	192	0.2	流紋岩	3.579	-28.578	20.651		
4	193	1.4	流紋岩	2.546	-27.837	20.597		
4	194	0.7	流紋岩	2.445	-27.598	20.574		
4	195	0.3	流紋岩	3.255	-28.257	20.772		
4	196	1.3	流紋岩	2.085	-27.661	20.558		
4	197	0.1	流紋岩	2.493	-27.626	20.559		
4	198	0.1 未満	流紋岩	2.558	-27.841	20.321		
4	199	0.1	流紋岩	2.894	-27.695	20.549		
4	201	0.1	流紋岩	3.199	-27.229	20.556		
4	202	0.1 未満	流紋岩	2.998	-27.835	20.583		
4	203	0.1 未満	流紋岩	3.062	-27.763	20.546		
4	204	0.1 未満	流紋岩	3.101	-27.760	20.546		
4	205	0.1 未満	流紋岩	3.784	-27.501	20.568		
4	206	0.1 未満	頁岩	4.015	-27.637	20.643		
4	207	0.1 未満	流紋岩	3.894	-28.295	20.669		
4	208	0.1 未満	流紋岩	1.980	-28.751	20.612		
4	209	0.1 未満	流紋岩	2.112	-28.840	20.617		
4	210	0.3	流紋岩	3.107	-28.736	20.618		
4	211	4.1	流紋岩	2.915	-28.361	20.600		
4	212	0.9	流紋岩	2.912	-27.861	20.577		
4	213	0.1	流紋岩	2.713	-27.617	20.565		
4	214	Q 25	1.1	頁岩	3.644	-28.247	20.597	
4	215	Q 16	1.0	流紋岩	3.461	-27.533	20.511	
4	216	Q 15	2.6	流紋岩	3.620	-27.843	20.542	
4	217	0.7	流紋岩	4.141	-27.443	20.630		
4	218	Q 23	9.1	安山岩	4.039	-28.100	20.615	
4	219	Q 24	5.8	頁岩	5.039	-26.646	20.365	
4	228	0.6	流紋岩	3.779	-28.157	20.574		
4	229	Q 30	6.6	流紋岩	3.344	-28.225	20.576	
4	230	1.5	流紋岩	2.721	-27.607	20.545		
4	231	0.1	流紋岩	3.022	-28.290	20.578		
4	232	1.6	流紋岩	2.426	-28.061	20.541		
4	233	0.3	流紋岩	2.476	-28.443	20.560		
4	234	0.2	流紋岩	2.161	-27.130	20.522		
4	235	Q 19	32.8	流紋岩	2.983	-28.003	20.567	
4	236	0.5	流紋岩	4.201	-28.273	20.582		
4	237	0.1 未満	流紋岩	4.164	-27.973	20.568		
4	238	0.1 未満	流紋岩	4.069	-27.927	20.566		
4	239	0.5	流紋岩	3.907	-27.840	20.562		
4	240	0.1 未満	流紋岩	3.271	-28.121	20.562		
4	241	0.2	流紋岩	3.239	-28.233	20.567		
4	242	0.5	流紋岩	3.075	-27.829	20.509		
4	245	Q 21	4.9	流紋岩	3.528	-28.443	20.543	
4	246	0.7	流紋岩	3.374	-28.297	20.535		
4	247	0.1	流紋岩	3.789	-27.859	20.548		
4	248	1.0	流紋岩	2.623	-28.741	20.517		
4	249	0.3	流紋岩	3.099	-28.711	20.518		
4	250	0.1 未満	頁岩	2.692	-27.917	20.418		
4	251	0.1 未満	流紋岩	2.924	-27.808	20.474		

集中地点 (SS)	番号	地物 番号	重量	材質	X (m)	Y (m)	Z (m)	
4	252	0.3	流紋岩	3.183	-27.917	20.467		
4	253	0.1	流紋岩	3.688	-28.309	20.455		
4	254	0.1	流紋岩	2.744	-28.359	20.466		
4	255	0.6	流紋岩	1.804	-28.046	20.743		
4	256	1.2	流紋岩	1.611	-28.076	20.621		
4	257	0.3	流紋岩	3.305	-27.988	20.429		
4	258	0.5	流紋岩	2.669	-28.320	20.491		
4	259	0.8	流紋岩	3.745	-28.240	20.427		
5	1	Q 29	5.9	頁岩	1.693	-21.903	20.821	
5	2	0.7	頁岩	2.044	-22.699	20.746		
5	3	4.1	頁岩	2.654	-23.048	20.749		
5	4	0.6	安山岩	2.995	-23.681	20.756		
5	5	0.1 未満	安山岩	3.640	-22.926	20.783		
5	6	0.1 未満	安山岩	3.760	-23.687	20.752		
5	7	0.6	安山岩	2.487	-24.528	20.830		
5	8	Q 31	1.3	頁岩	2.197	-20.081	20.838	
5	9	0.4	頁岩	0.384	-25.793	20.822		
5	10	0.1	頁岩	0.822	-25.277	20.836		
5	11	0.1 未満	安山岩	2.163	-25.762	20.754		
5	12	0.2	安山岩	2.506	-25.826	20.724		
5	13	0.6	安山岩	2.332	-25.216	20.702		
5	14	0.1	安山岩	2.285	-24.826	20.712		
5	15	4.9	安山岩	3.355	-25.001	20.708		
5	16	Q 43	14.3	安山岩	2.521	-24.668	20.719	
5	17	17.0	安山岩	2.832	-24.575	20.741		
5	18	0.1 未満	安山岩	3.196	-25.219	20.764		
5	19	16.8	安山岩	3.363	-23.579	20.732		
5	21	2.2	頁岩	5.896	-23.694	20.758		
5	22	Q 32	1.2	頁岩	6.252	-22.500	20.791	
5	23	0.1 未満	頁岩	1.506	-25.506	20.721		
5	24	0.1 未満	安山岩	2.539	-24.049	20.654		
5	25	0.1 未満	安山岩	2.187	-25.132	20.704		
5	26	7.7	安山岩	2.296	-25.141	20.674		
5	27	0.1 未満	安山岩	2.658	-24.694	20.708		
5	29	Q 42	23.4	安山岩	2.385	-24.401	20.761	
5	30	0.3	安山岩	2.786	-24.640	20.640		
5	31	Q 33	5.8	流紋岩	2.703	-24.744	20.700	
5	32	12.6	安山岩	2.572	-25.080	20.679		
5	33	1.3	安山岩	2.800	-25.313	20.670		
5	34	23.8	安山岩	3.113	-24.987	20.671		
5	35	29.0	安山岩	2.731	-24.431	20.663		
5	36	0.4	頁岩	1.866	-24.795	20.801		
5	37	3.4	安山岩	1.870	-24.890	20.770		
5	38	1.1	頁岩	1.602	-25.197	20.761		
5	39	0.2	安山岩	1.429	-25.908	20.778		
5	40	0.1	頁岩	0.619	-25.650	20.758		
5	41	0.1	安山岩	0.449	-25.242	20.772		
5	42	0.6	頁岩	0.666	-24.856	20.714		
5	43	Q 30	1.9	頁岩	0.688	-24.465	20.712	
5	44	0.3	安山岩	0.429	-24.010	20.765		
5	45	Q 39	1.4	頁岩	0.290	-23.395	20.748	
5	46	0.3	頁岩	0.666	-23.008	20.762		
5	47	0.3	頁岩	1.433	-22.701	20.702		
5	48	33.9	安山岩	1.421	-22.938	20.630		
5	49	0.3	安山岩	1.636	-23.778	20.678		
5	50	3.4	頁岩	2.334	-24.516	20.667		
5	51	0.1	安山岩	0.649	-24.496	20.725		
5	53	0.1	安山岩	2.811	-24.654	20.710		
5	54	0.1 未満	頁岩	0.889	-24.172	20.729		
5	55	0.1 未満	頁岩	0.112	-24.613	20.655		
5	56	0.1 未満	頁岩	0.384	-24.284	20.655		
5	57	0.1 未満	頁岩	0.548	-23.685	20.510		
5	58	0.1 未満	頁岩	0.633	-24.169	20.675		
5	59	0.2	頁岩	0.732	-24.450	20.682		
5	60	0.2	頁岩	0.676	-24.857	20.685		
5	61	0.2	頁岩	1.080	-25.324	20.641		
5	62	0.7	安山岩	1.188	-25.989	20.684		
5	63	0.1 未満	安山岩	1.238	-26.344	20.669		

集点地点 (SS)	番号	建物 番号	重量	材質	X (m)	Y (m)	Z (m)
5	64	0.1 未測		安山岩	-3.22	-25.593	20.613
5	65	0.1 未測		安山岩	-2.810	-25.316	20.665
5	66	0.1 未測		頁岩	-2.641	-24.899	20.602
5	67	0.1 未測		頁岩	-2.542	-24.589	20.564
5	68	0.1 未測		頁岩	-2.058	-25.098	20.674
5	69	0.1 未測		頁岩	-1.750	-25.084	20.723
5	70	0.1 未測		安山岩	-1.874	-24.002	20.720
5	71	0.1 未測		頁岩	-1.335	-23.093	20.523
5	72	2.0	+++		-1.372	-23.005	20.550
5	73	0.5		頁岩	-0.898	-24.378	20.702
5	74	Q 38	1.6	頁岩	-0.877	-24.466	20.687
5	75	0.1 未測		頁岩	-0.914	-24.756	20.657
5	76	0.7		頁岩	-1.095	-24.806	20.633
5	77	Q 37	2.5	頁岩	-0.230	-25.592	20.692
5	78	Q 26	33.0	頁岩	-1.158	-25.062	20.675
5	79	1.4		頁岩	-1.350	-25.058	20.692
5	80	Q 40	16.5	流紋岩	-1.470	-25.130	20.673
5	81	0.1		安山岩	-2.128	-25.052	20.674
5	82	Q 44	12.9	安山岩	-2.002	-24.457	20.702
5	83	0.5		頁岩	-1.465	-24.149	20.664
5	84	16.4		安山岩	-2.179	-24.115	20.605
5	85	1.8		安山岩	-2.728	-23.927	20.602
5	86	Q 43	5.6	地層	-2.789	-24.639	20.549
5	87	0.1		安山岩	-2.831	-25.656	20.622
5	88	0.3		安山岩	-3.222	-25.071	20.590
5	89	0.2		頁岩	-3.377	-22.974	20.605
5	90	1.3		頁岩	-2.956	-23.060	20.573
5	91	0.1 未測		頁岩	-1.385	-22.979	20.534
5	92	0.7	+++		-3.361	-23.639	20.520
5	93	0.1 未測		頁岩	-2.121	-25.074	20.679
5	94	0.1		安山岩	-2.220	-24.568	20.620
5	95	1.4		流紋岩	-2.989	-27.628	20.762
5	96	1.1		流紋岩	-3.253	-27.256	20.782
5	97	0.2		流紋岩	-2.444	-25.783	20.805
5	98	1.0		流紋岩	-1.850	-27.442	20.692
5	99	0.1		流紋岩	-1.873	-27.038	20.650
5	100	16.9		+++	-1.222	-27.356	20.638
5	102	2.9		流紋岩	-0.127	-26.709	20.664
5	103	0.5		頁岩	-0.102	-25.167	20.582
5	104	Q 17	21.1	流紋岩	-0.084	-25.047	20.553
5	105	0.3		頁岩	-0.336	-24.628	20.589
5	106	7.3		頁岩	-0.336	-24.438	20.624
5	107	0.1		頁岩	-0.414	-23.942	20.578
5	108	2.2		頁岩	-0.482	-24.280	20.553
5	109	Q 41	69.8	安山岩	-0.856	-23.936	20.566
5	110	1.4		流紋岩	-0.724	-24.351	20.579
5	111	3.9		頁岩	-0.938	-24.298	20.581
5	112	0.6		頁岩	-0.977	-24.434	20.576
5	113	Q 28	6.3	頁岩	-0.900	-24.633	20.606
5	114	3.0		頁岩	-0.671	-24.678	20.512
5	115	0.1 未測		安山岩	-0.915	-24.881	20.554

集点地点 (SS)	番号	建物 番号	重量	材質	X (m)	Y (m)	Z (m)
5	116	0.1		頁岩	-1.139	-24.829	20.536
5	118	Q 46	1.3	頁岩	-1.418	-25.019	20.590
5	119	0.3		安山岩	-1.793	-24.833	20.607
5	120	Q 36	7.8	頁岩	-1.672	-24.982	20.590
5	121	0.4		安山岩	-1.813	-25.219	20.593
5	122	Q 34	2.2	安山岩	-1.990	-25.298	20.590
5	123	0.1 未測		頁岩	-1.213	-23.926	20.584
5	124	0.1 未測		頁岩	-1.695	-23.928	20.528
5	125	2.9		安山岩	-1.304	-24.251	20.517
5	126	0.3		頁岩	-1.242	-24.324	20.537
5	127	0.7		頁岩	-1.585	-24.299	20.480
5	128	0.8		安山岩	-2.108	-25.858	20.630
5	129	0.1 未測		頁岩	-2.336	-25.816	20.591
5	130	0.1 未測		安山岩	-2.402	-25.889	20.615
5	131	0.1 未測		頁岩	-2.635	-25.115	20.471
5	132	3.7		安山岩	-3.351	-25.195	20.511
5	133	0.2		安山岩	-3.397	-24.716	20.429
5	134	0.1 未測		頁岩	-1.000	-23.671	20.793
5	141	0.2		安山岩	-1.063	-23.694	20.793
5	143	0.1 未測		頁岩	-1.833	-24.855	20.546
5	144	1.3		頁岩	-0.272	-24.597	20.593
5	145	0.1 未測		頁岩	-0.762	-23.983	20.467
5	146	0.1 未測		頁岩	-1.044	-24.008	20.594
5	147	0.2		頁岩	-0.873	-24.183	20.482
5	148	2.4		頁岩	-0.679	-24.218	20.480
5	150	0.1		頁岩	-0.517	-24.400	20.526
5	151	0.1		頁岩	-0.638	-24.571	20.482
5	152	0.1		頁岩	-0.736	-24.347	20.525
5	153	Q 35	47.2	安山岩	-0.794	-24.429	20.501
5	154	0.1 未測		頁岩	-0.981	-24.475	20.471
5	155	0.1 未測		頁岩	-1.085	-24.412	20.510
5	156	0.1		頁岩	-1.116	-24.673	20.487
5	157	0.6		頁岩	-0.948	-24.871	20.482
5	158	0.3		頁岩	-0.870	-24.686	20.461
5	159	0.1		頁岩	-1.041	-24.942	20.472
5	160	0.1		頁岩	-1.245	-25.237	20.490
5	161	0.1 未測		頁岩	-1.378	-25.024	20.458
5	162	0.1 未測		安山岩	-1.640	-24.699	20.460
5	163	0.1 未測		安山岩	-1.708	-25.169	20.487
5	164	0.1 未測		安山岩	-1.665	-25.984	20.502
5	166	0.1		安山岩	-1.247	-23.968	20.768
5	186	0.1		安山岩	-1.041	-24.430	20.487
5	220	0.1 未測		頁岩	-1.172	-24.798	20.417
5	221	0.1 未測		頁岩	-1.116	-24.812	20.418
5	222	0.1 未測		頁岩	-1.113	-24.535	20.407
5	223	0.8		頁岩	-0.795	-24.518	20.410
5	224	3.4		安山岩	-0.796	-24.274	20.400
5	225	3.1		頁岩	-0.385	-24.494	20.414
5	243	0.1 未測		頁岩	-1.085	-24.784	20.421
5	244	0.4		安山岩	2.061	-22.581	20.645

2 縄文時代の遺構と遺物

縄文時代の遺構は、土坑2基が確認された。以下、遺構と遺物について記述する。

第8号土坑（第16図）

位置 調査区西部のB2c6区、標高20.6mの台地上に位置している。

規模と形状 長径1.57m、短径1.48mの円形で、深さは54cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。主軸方向はN-22°-Wである。

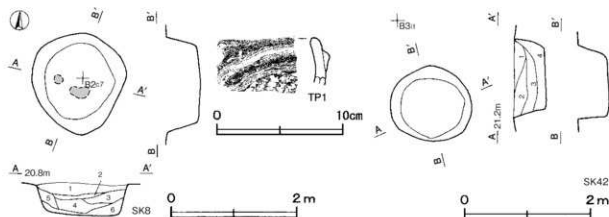
覆土 6層に分けられる。焼土ブロックや炭化物を含み、埋め戻した堆積状況を示している。

土層解説

1 褐色	焼土ブロック・炭化物少量、ロームブロック微量	4 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
2 暗褐色	ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化物微量	5 極暗褐色	炭化粒子少量、ロームブロック微量
3 褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量	6 暗褐色	焼土ブロック・炭化物・ローム粒子少量

遺物出土状況 覆土下層から縄文土器片21点（深鉢）が出土している。また下層に炭化物を含む焼土範囲を2か所確認したが、赤変硬化した面は認められず、短期での使用が考えられる。

所見 時期は、出土土器から縄文時代中期後葉と考えられる。



第16図 第8号土坑・出土遺物実測図、第42号土坑実測図

第8号土坑出土遺物観察表（第16図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP1	縄文土器	深鉢	-	(3.5)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口辺部は沈積が沿う降着文により演出 底文は単純縄文施文	覆土中	PL3 中期後葉

第42号土坑（第16図）

位置 調査区中央部のB3i1区、標高20.9mの台地上に位置している。

規模と形状 長径1.28m、短径1.18mの円形で、深さは50cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。主軸方向はN-0°である。

覆土 4層からなる。周囲からの流れ込んだ状況を示す自然堆積である。

土層解説

1 褐色	ローム粒子少量	3 褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量
2 褐色	ロームブロック微量	4 褐色	ローム粒子中量

遺物出土状況 覆土上層から中層にかけて縄文土器片4点（深鉢）が出土しているが、細片で図示できない。

所見 時期は、出土土器から縄文時代中期後葉と考えられる。

表4 縄文時代土坑一覧表

遺構番号	位置	長径方向	平面形	規模 (m) 長径×短径	深さ (cm)	覆土	底面	壁面	主な出土遺物	備考 時期・基層関係 (古→新)
8	B 2 c6	N-22°-W	円形	1.57×1.48	54	人為	平坦	外傾	縄文土器	中期後葉
42	B 3 i1	N-0°	円形	1.28×1.18	50	自然	平坦	外傾	縄文土器	中期後葉

3 古墳時代の遺構と遺物

古墳時代の遺構は、堅穴住居跡が4軒確認された。以下、遺構と遺物について記述する。

第1号住居跡（第17図）

位置 調査区中央部のC 4 b3区、標高20.9mの台地上に位置している。

重複関係 第63号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 西側は調査区域外に延びている。南北軸5.02m、東西軸は3.72mが確認され、方形または長方形と推定される。壁高は8cmで、壁は外傾して立ち上がっている。主軸方向はN-43°-Wである。

床 平坦で、壁際を除いて踏み固められている。焼土を多く含む範囲が点在しているが、床は火を受け赤化した痕跡がない。また、貯蔵穴の北側に床と区画するようなわずかな高まりがある。

炉 中央よりやや北側に付設されており、長径80cm、短径60cmの楕円形である。床面を10cmほど掘り込んだ地床炉で、炉床面は火を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

- 1 黒暗赤褐色 炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量 2 暗赤褐色 焼土ブロック少量

ピット 2か所。P1は深さ42cmで、住居の中央部に向かってオーバーハングしており、出入口施設に伴うピットと考えられる。P2は北コーナー部に位置し、深さが24cmで、性格は不明である。2か所ともに、堆積状況から柱の痕跡は見当たらない。

貯蔵穴 南東のコーナー部に位置し、約50cmの方形で、深さが40cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。覆土に焼土や炭化物は含まれず、床の堆積土と異なることから、埋め戻された可能性が高い。

貯蔵穴土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量 3 黒暗褐色 ロームブロック微量
2 暗褐色 ローム粒子少量

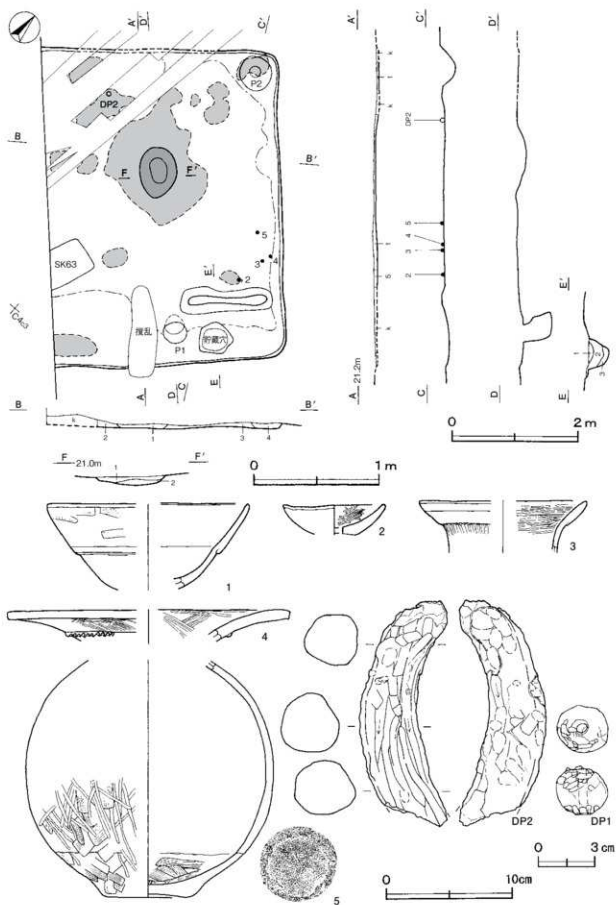
覆土 5層に分けられる。焼土ブロックを含む人為堆積である。

土層解説

- 1 黒暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック微量 4 黒褐色 ロームブロック微量
2 暗褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック微量 5 暗赤褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化物少量
3 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック微量

遺物出土状況 土器器片178点（坏12、埴2、器台1、壺21、甕142）、土製品2点（球状土錘、卵石形土製品）、ヤマトシジミ81点（右殻39、左殻42）、カワナナ2点のほか、混入した縄文土器片1点、須恵器片1点、陶器片2点、磁器片3点、不明鉄製品1点も出土している。1は貯蔵穴の覆土中、2～5は東部の床面からそれぞれ出土している。北西壁付近に出土したヤマトシジミは、埋め戻しの際に混入したと考えられる。

所見 本跡の西にも地点貝塚が確認されており、本跡との関連が想定される。覆土の堆積状況から、焼土住居と推定され、時期は、出土土器から4世紀前葉と考えられる。



第17图 第1号住居跡・出土遺物実測図

第1号住居跡出土遺物観察表 (第17図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	土師器	埴	[16.0]	(6.7)	-	長石・石英・赤色・白色粒子	橙	普通	口辺部外面ハケ目後ナデ消し 内面ナデ	貯蔵穴覆土中	PL3 25%
2	土師器	器台	8.2	(2.4)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口辺部外面ナデ 内面ヘラ磨き	床面	30%
3	土師器	壺	[13.2]	(4.1)	-	長石・石英・白色粒子	にぶい黄橙	普通	折り返し口辺部外面ハケナデ 内面ヘラ磨き 頸部内・外面ヘラ磨き	床面覆土中	PL3 10%
4	土師器	壺	[22.4]	(2.5)	-	長石・石英・紫母	橙	普通	口辺部外面ヘラ磨き 下縁に漆塗貼り口縁部ナデ 口縁部ナデミ目を施す 内面ヘラ磨き	床面	5%
5	土師器	壺	-	(18.7)	6.1	長石・石英	浅黄橙	普通	体部外面ハケ目後ナデ消し 下縁ヘラ磨き 内面ハケ目 底部外面ヘラナデ	床面	PL3 40%
番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴		出土位置	備考	
DP 1	球状土錘	2.5 ~ 2.7	2.5	4.7	167	粘土	ナデ一方向からの穿孔 穿孔部周囲に細い棒状工具痕 孔径 0.5 cm		貯蔵穴覆土中	PL4	
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考	
DP 2	炉石形土製品	(17.9)	6.9	4.7	(446.1)	粘土	表面ヘラナデ火熱痕 表面磨頭圧痕		床面	PL4	

表5 第1号住居跡出土ヤマトシジミ殻長別集計表

ヤマトシジミ	殻長 (cm)	1.0 ~ 1.5	1.6 ~ 2.0	2.1 ~ 2.5	2.6 ~ 3.0	3.1 ~ 3.5	3.6 ~ 4.0	4.1 ~ 4.5	小計 (個)	総重量 (g)
		右殻	0	2	16	18	3	0		
左殻	0	1	14	22	5	0	0	42		

第2号住居跡 (第18図)

位置 調査区東部のD 5e3区、標高20.3mの台地上に位置している。

重複関係 第56号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 床面が露出した状態で確認された。長軸4.98m、短軸4.48mの方形と推定され、主軸方向はN-48°-Wである。

床 平坦で、炉の東西が踏み固められている。また確認できた床の周囲には幅16cm、深さ8cm、断面U字状の壁溝が巡っている。

炉 中央よりやや北東側に付設されており、長軸80cm、短軸52cmの長方形である。床面を6cmほど影り込んだ地床炉で、炉床面は火を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

- 1 黒褐色 焼土ブロック微量、ローム粒子微量

ピット 4か所。深さ28 ~ 32cmで、配置から主柱穴である。堆積土に柱材の痕跡は見当たらない。

貯蔵穴 東コーナー部に位置し、長軸80cm、短軸42cmの長方形で、深さは30cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。細片の土師器片のほか、縄文土器片も出土しており、廃絶時の埋め戻しが想定される。

貯蔵穴土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
2 暗褐色 ローム粒子少量
3 黒褐色 ローム粒子微量

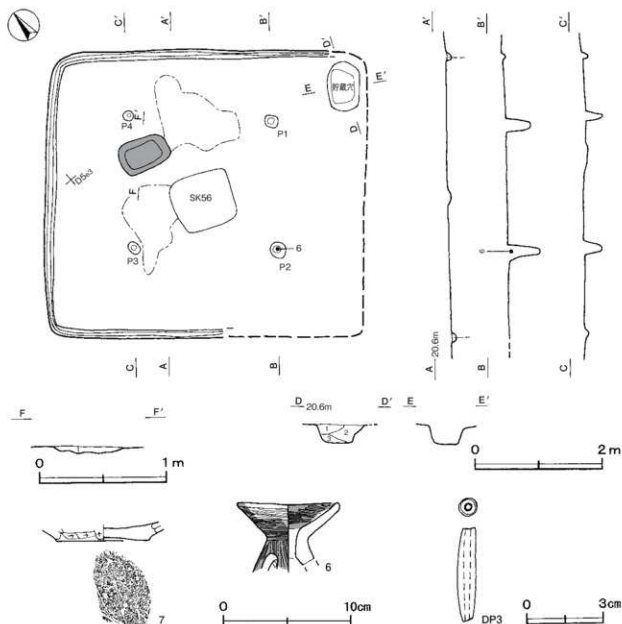
覆土 床面が露出した状態のため、壁溝の堆積土のみ確認した。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量

遺物出土状況 土師器片39点 (器台1、寛38)、管状土錘1点のほか、混入した縄文土器片2点、土師質土器片2点 (小皿)、不明鉄製品1点が出土している。6はP2の覆土上層から逆位で出土している。土師器片は貯蔵穴の覆土からの出土で、細片のため図示できない。

所見 時期は、出土土器から4世紀前葉と考えられる。



第18図 第2号住居跡・出土遺物実測図

第2号住居跡出土遺物観察表(第18図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
6	土師器	器台	8.2	(5.4)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	器受部赤彩 外面へツ磨き	内・外面へツ磨き 脚部	P2 覆土上層 PL3 80%
7	土師器	甕	-	(1.4)	(7.2)	長石・石英・赤色粒子	明褐	普通	体部下端外面へツ削り 底面テラ	底部外面木葉	確認面 5%
番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴		出土位置	備考	
DP 3	管状土師	08	3.7	0.3	25	粘土	外面ナテ		貯蔵穴覆土中	PL4	

第3号住居跡(第19図)

位置 調査区東部のD5h1区、標高20mの台地上に位置している。

規模と形状 南側は調査区域外に延びている。東西軸3.68m、南北軸は1.90mが確認され、方形または長方形と推定される。壁高は8～20cmで、壁は外傾して立ち上がっている。主軸方向はN-45°-Wである。

床 平坦で、炉の西側が踏み固められている。

炉 中央付近に付設され、長径42cm、短径40cmの円形である。床面から6cmほど掘り込んだ地床炉で、炉床面は火を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

- 1 黒褐色 焼土ブロック微量、ローム粒子微量

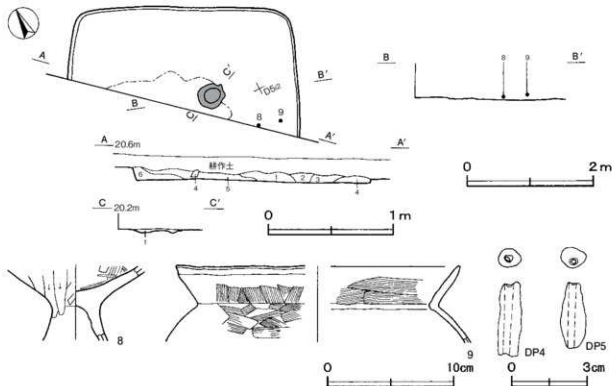
覆土 6層に分けられる。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
 2 黒褐色 ローム粒子微量
 3 黒褐色 焼土粒子微量
 4 褐色 ローム粒子少量
 5 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
 6 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量

遺物出土状況 土師器片70点（坏4、高坏1、甕65）、土製品2点（管状土鍾）のほか、混入した縄文土器片7点、須恵器片3点（坏）も出土している。8は床面、9は覆土下層から出土しているが、いずれも細片で、廃絶時の埋め戻しの際に混入したものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から4世紀前葉と考えられる。



第19図 第3号住居跡・出土遺物実測図

第3号住居跡出土遺物観察表（第19図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
8	土師器	高坏	-	(5.9)	-	長石・石英・白色粒子	橙	普通	坏部～脚部外面へラ削り 坏部内部へラ磨き	床面	25%
9	土師器	甕	(22.5)	(6.0)	-	長石・石英・赤砂・赤包粒子	橙	普通	口辺部外面ハケ目 後口唇部ナデ 内面ハケ目 体部外面ハケ目 内面ナデ	覆土下層	5%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP 4	管状土鉢	0.9	2.9	0.4	2.2	粘土	外面ナデ	覆土中	PL4
DP 5	管状土鉢	1.0	2.6	0.3	1.7	粘土	外面ナデ	覆土中	PL4

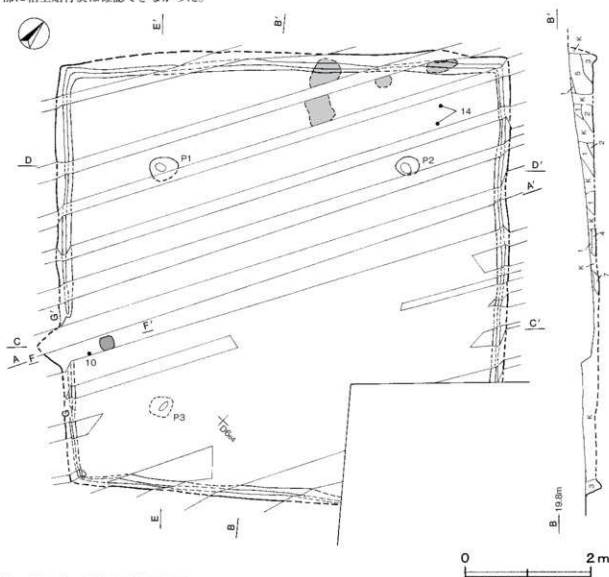
第4号住居跡 (第20～22図)

位置 調査区東部のD 6 d3区、標高19.4mの台地上に位置している。

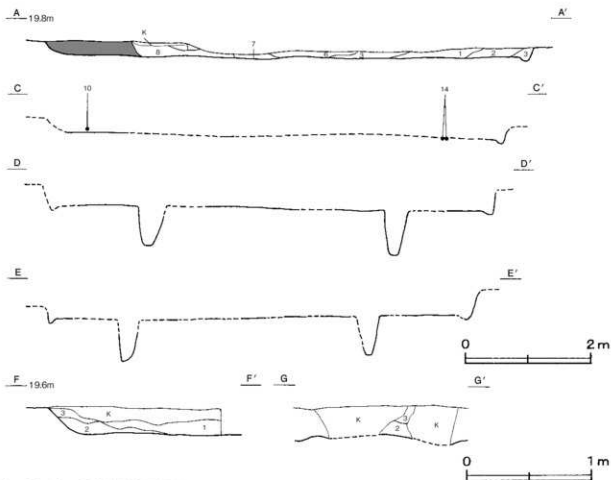
規模と形状 南東部が調査区域外に延び、耕作による攪乱を受けている。長軸7.18m、短軸7.12mの方形である。壁高は20～32cmで、壁は外傾して立ち上がっている。主軸方向はN-137°-Wである。

床 平坦である。残存部に硬化面と認められる痕跡は確認できない。竈付近を除いて幅14cm、深さ8cm、断面U字状の壁溝が巡っている。

竈 西壁の南寄りに付設されている。耕作による攪乱を受けているため、赤変硬化した火床面と煙道部の一部のみが確認され、竈煙道の長さは120cmほどで、底面に、掘りくぼめた痕跡はなく、平坦である。また、袖基部に粘土貼付痕は確認できなかった。



第20図 第4号住居跡実測図(1)



第21図 第4号住居跡実測図(2)

電土層解説

- | | |
|-------------------------|------------------------|
| 1 黒暗褐色 砂質粘土粒子少量、ローム粒子微量 | 3 黒褐色 砂質粘土粒子中量、ローム粒子微量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子・砂質粘土粒子少量 | |

ピット 3か所。深さ64～72cmで、配置から主柱穴である。堆積土に柱材の痕跡は見当たらない。

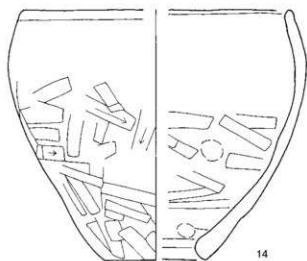
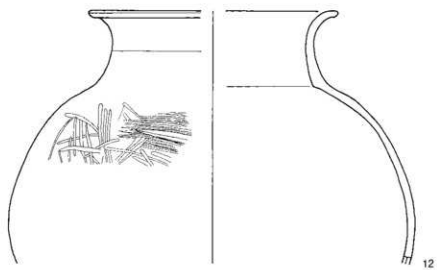
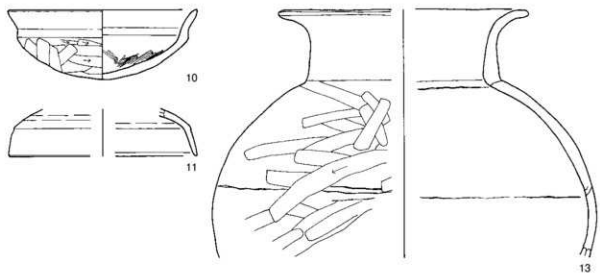
覆土 8層に分けられる。ロームや焼土のブロックを含む人為堆積である。北のコーナー部に焼土塊があるが、壁から床上にかけて斜位で出土しており、投棄されたものと考えられる。

土層解説

- | | |
|-------------------------------|-----------------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量 | 5 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック微量 |
| 2 黒暗褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量 | 6 黒暗褐色 ロームブロック少量 |
| 3 暗褐色 ローム粒子少量、焼土ブロック微量 | 7 暗褐色 焼土ブロック・ローム粒子微量 |
| 4 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量 | 8 暗褐色 焼土ブロック・ローム粒子・砂質粘土粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片202点(坏46, 甕145, 瓶11), 須恵器片9点(坏3, 蓋5, 甕1)が出土しているほか、混入した縄土土器片2点, 弥生土器片8点, 陶器片6点が出土している。10は南西部及び竈覆土中の破片が接合し, また, 12・13は北西部及び竈覆土中の破片が接合したもので, さらに13は, P1・P3付近の破片も接合している。

所見 土器の出土状況から, 埋め戻しの際に遺物を廃棄したものと思われる。時期は, 出土土器から6世紀前葉と考えられる。



第22图 第4号住居跡出土遺物実測図

第4号住居跡出土遺物観察表 (第22図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
10	土師器	坏	15.0	5.5	-	長石・石英・雲母・針状鉱物	橙	普通	体部外面へラ削り・内面下端へラ磨き・口辺部内・外面ナデ	覆土下層 遺覆土中	PL3 40%
11	須恵器	蓋	(15.0)	(3.7)	-	長石	褐灰	普通	ロクロ成形 天井部回転へラ削り	覆土中	PL3 15%
12	土師器	甕	(19.3)	(20.2)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口辺部内・外面ナデ 体部外面へラ磨き・内面ナデ 体部外面磨削痕	覆土中 遺覆土中	20%
13	土師器	甕	(20.0)	(19.7)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口辺部内・外面ナデ 体部外面へラ削り・内面ナデ	覆土中 遺覆土中	10%
14	土師器	瓶	(21.0)	19.8	7.5	長石・石英・白 色粒子	橙	普通	口辺部外面ナデ 体部内・外面へラ削り 内面鉛直位置	床面覆土中	PL3 70%

表6 古墳時代住居一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模 (m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	内部施設				覆土	主な出土遺物	時期	新旧関係(旧→新)
							壁溝	土座	出入口	ピット				
1	C 4 b3	N-45°-W	[長方形]	5.02 × (3.72)	8	平坦	-	-	1	伊1	1	土師器 透状土 灰 伊石形土製 器 ヤマトシジミ 土師器 管状 土師	4世紀前半	本跡→SK63
2	D 5 e3	N-48°-W	[方形]	[4.98] × 4.48	-	平坦	一部	4	-	伊1	1	不明	4世紀前半	本跡→SK36
3	D 5 h1	N-45°-W	[方形]	3.68 × (1.90)	8~20	平坦	-	-	-	伊1	1	土師器 管状 土師	4世紀前半	
4	D 6 d3	N-137°-W	[方形]	[7.18] × [7.12]	20~32	平坦	全周	3	-	竈1	1	土師器	6世紀前半	

4 中世の遺構と遺物

中世の遺構は、地下式坑4基、土坑墓1基、火葬土坑3基が確認された。以下、遺構と遺物について記述する。

(1) 地下式坑

第1号地下式坑 (第23図)

位置 調査区西部のB 2c0区、標高20.5mの台地上に位置している。

堅坑 主室西側に位置し、長軸1.24m、短軸1mの隅丸長方形である。壁高は1.5mで、壁は直立して立ち上がり、底面は平坦である。羨道部は主室に向かって緩斜し、天井は遺存している。

主室 堅坑の東側に位置し、長径2.81m、短径2.49mの楕円形である。深さは1.77mで、壁は底面から直立して立ち上がり、上部は外傾して立ち上がっている。主軸方向はN-85°-Wである。

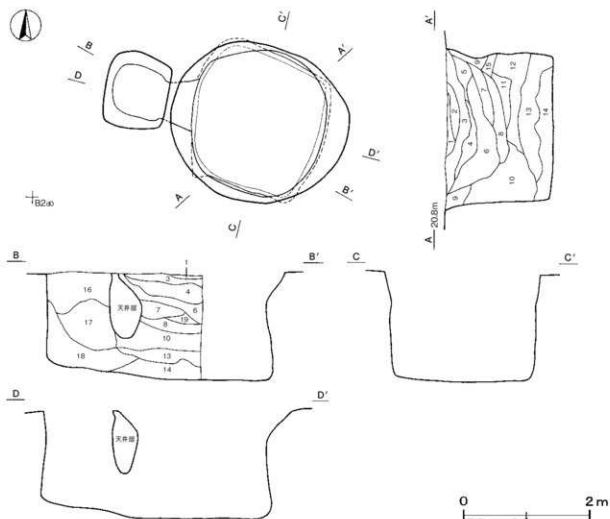
覆土 19層に分けられる。主室下層の第12~14層はロームブロックを含み、締まりが強く、天井部の崩落土と考えられる。その上層の第1~8層はレンズ状に堆積していることから、自然堆積である。堅坑の第16~18層は、粘土粒子を含んで締まりが強く、主室と土質が異なることから、堅坑を埋め戻したと考えられる。

土層解説

1	黒褐色	ローム粒子微量	11	褐色	ロームブロック少量
2	暗褐色	ローム粒子少量	12	にぶい褐色	ロームブロック多量
3	暗褐色	ローム粒子少量	13	褐色	ロームブロック中量
4	暗褐色	ローム粒子・炭化粒子微量	14	にぶい褐色	ロームブロック中量、粘土ブロック少量
5	暗褐色	ロームブロック少量	15	暗褐色	ローム粒子中量
6	暗褐色	ロームブロック微量	16	にぶい褐色	ロームブロック微量、粘土粒子少量
7	褐色	ローム粒子少量	17	にぶい褐色	ロームブロック・粘土粒子少量
8	褐色	ロームブロック微量	18	暗褐色	ロームブロック中量、粘土粒子少量
9	暗褐色	ロームブロック微量	19	褐色	ロームブロック中量、粘土粒子少量
10	褐色	ロームブロック多量			

遺物出土状況 陶器片4点(堯)のほか、混入した土師器片5点、縄文土器片2点、弥生土器片1点も出土しているが、細片のため図示できない。すべて主室の天井崩落後に堆積した覆土中である。

所見 時期は、形状から中世と考えられる。



第23図 第1号地下式坑実測図

第2号地下式坑 (第24図)

位置 調査区西部のB 2 b0区、標高20.5mの台地上に位置している。

竪坑 主室南側に位置し、長軸1.46m、短軸1.28mの隅丸長方形である。壁高は1.08mで、壁は直立して立ち上がり、底面は平坦である。羨道部は主室に向かって緩斜している。

主室 竪坑の北側に位置し、長径2.92m、短径2.33mの楕円形である。深さは1.55mで、壁は底面からややオーバーハングして立ち上がり、主軸方向はN-14°-Eである。

覆土 17層に分けられる。主室下層の第10・11層は、ロームブロックを含んで締まりが強く、天井部の崩落土と考えられる。その上層の第1～9層は、レンズ状に堆積している自然堆積である。竪坑の第16・17層は、粘土を含んで非常にしまりが強いことから、竪坑を埋め戻したものと考えられる。

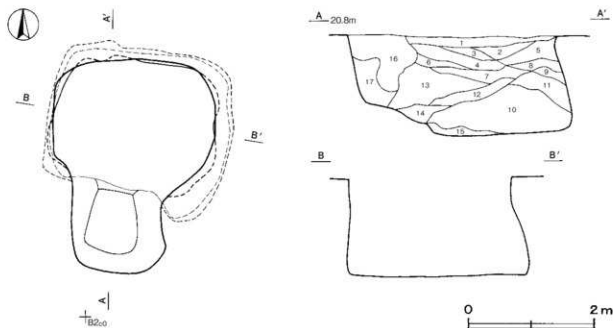
土層解説

- | | | | |
|--------|-----------|----------|--------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子微量 | 10 褐色 | ロームブロック多量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量 | 11 暗褐色 | ローム粒子中量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量 | 12 褐色 | ローム粒子中量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック微量 | 13 褐色 | ロームブロック中量 |
| 5 黒褐色 | ロームブロック少量 | 14 に近い褐色 | ロームブロック中量 |
| 6 暗褐色 | ローム粒子少量 | 15 暗褐色 | ロームブロック多量 |
| 7 黒褐色 | ロームブロック少量 | 16 に近い褐色 | ロームブロック多量、粘土ブロック少量 |
| 8 極暗褐色 | ローム粒子少量 | 17 に近い褐色 | ロームブロック多量、粘土粒子少量 |
| 9 極暗褐色 | ローム粒子少量 | | |

遺物出土状況 陶器片1点(天目茶碗)のほか、混入した弥生土器片3点、土師器片7点(坏1, 甕6)も出

土しているが、細片のため図示できない。すべて主室の天井崩落後に堆積した覆土中である。

所見 時期は、形状から中世と考えられる。



第24図 第2号地下式坑実測図

第3号地下式坑 (第25図)

位置 調査区西部のB 37区、標高20.4mの台地上に位置している。

竪坑1 主室北東に位置し、上面は長軸1.4m、短軸0.8mの隅丸長方形である。壁高は1.12mで、壁は直立して立ち上がっている。また、底面は平坦で、主室底面と約40cmの段差がある。

竪坑2 主室北西に位置し、上面は長軸1.08m、短軸1mの隅丸長方形である。壁高は1.12mで、壁は直立して立ち上がり、底面は平坦である。羨道部は主室に向かって緩斜しており、主室との間の天井が遺存している。

主室 竪坑1の南西、竪坑2の南東に位置し、長軸3.2m、短軸2mの隅丸長方形で、深さは1.64mである。壁は底面から直立して立ち上がるが、コーナー部はややオーバーハングしている。主室と竪坑1・2との主軸方向は、N-53°-E、N-50°-Wである。

覆土 23層に分けられる。主室下層の第10～12層はロームブロックを含んで締まりが強いことから、天井部の崩落土と考えられる。その上層はレンズ状に堆積している自然堆積である。竪坑1・2の覆土は、主室方向への流れ込みを示す自然堆積と考えられる。

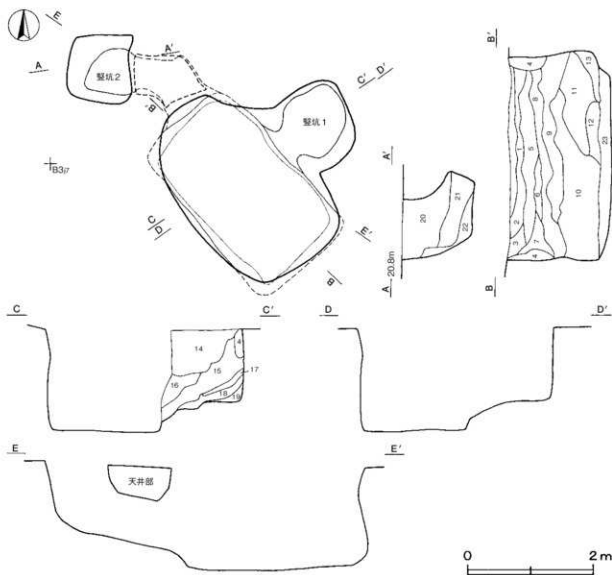
土層解説

1	黒褐色	ローム粒子微量	13	暗褐色	ロームブロック微量
2	暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子・粘土粒子微量	14	暗褐色	ロームブロック中量
3	褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量	15	極暗褐色	ローム粒子中量
4	褐色	ロームブロック微量	16	黒褐色	ローム粒子少量
5	黒褐色	ローム粒子・炭化粒子微量	17	暗褐色	粘土粒子少量、ローム粒子微量
6	暗褐色	ロームブロック少量	18	黒褐色	ロームブロック微量
7	褐色	ロームブロック中量	19	褐色	ロームブロック中量、粘土ブロック少量
8	黒褐色	ローム粒子微量	20	褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量
9	褐色	ロームブロック少量	21	にぶい褐色	ロームブロック中量
10	褐色	ローム粒子中量	22	褐色	ロームブロック中量、粘土粒子少量
11	褐色	ロームブロック多量	23	にぶい褐色	ロームブロック中量、粘土粒子微量
12	にぶい褐色	ロームブロック多量			

遺物出土状況 縄文土器片2点、土師器片29点(坏2、高坏1、甕26)、鏝5点、ヤマトシジミ69点が出土し

ているが、細片のため図示できない。すべて主室の天井崩落後に堆積した覆土中である。なお、貝殻の内訳は表7のとおりである。

所見 時期は、形状から中世と考えられる。



第25図 第3号地下式坑実測図

表7 第3号地下式坑出土ヤマトシジミ殻長別集計表

殻長 (cm)		1.0～1.5	1.6～2.0	2.1～2.5	2.6～3.0	3.1～3.5	3.6～4.0	4.1～4.5	小計 (個)	総重量 (g)
ヤマトシジミ	右殻	0	7	18	7	0	0	0	32	95.8
	左殻	1	14	20	2	0	0	0	37	

第4号地下式坑 (第26図)

位置 調査区西部のB3g4区、標高20.7mの台地上に位置している。

竪坑 主室北西側に位置し、上面は長軸1.22m、短軸1.18mの隅丸長方形である。壁高は1.58mで、壁は直立して立ち上がり、底面は平坦である。また、羨道の天井部が遺存しており、20cmほどの段差が認められる。

主室 竪坑の南東側に位置し、長軸1.48m、短軸1.36mの隅丸方形である。深さは1.6mで、壁は底面からオーバー

ハンクして立ち上がり、主軸方向はN-58°-Wである。

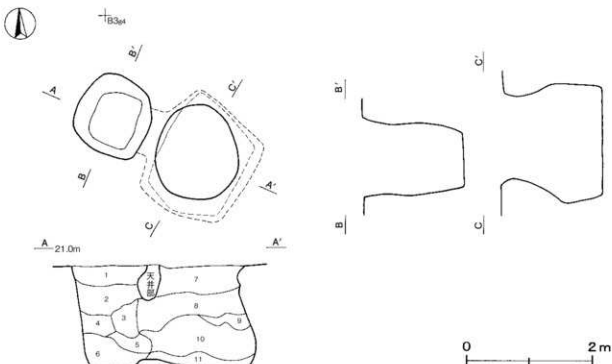
覆土 11層に分けられる。主室下層の第10層はロームブロックを多量含んで締まりが強いことから、天井部の崩落土と考えられる。その上層は締まりが弱く、同色の土で埋め戻している。堅坑の第3層は粘土ブロックを含み、また第1層はしまりが非常に強いことから、堅坑を埋め戻して固めたものと考えられる。

土層解説

- | | | | |
|--------|--------------------|--------|----------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 | 7 極暗褐色 | ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化物微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック多量、炭化粒子微量 | 8 極暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 3 黒褐色 | 粘土ブロック中量、ロームブロック少量 | 9 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 4 極暗褐色 | ローム粒子中量 | 10 褐色 | ロームブロック多量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック少量 | 11 暗褐色 | ロームブロック中量、粘土粒子少量 |
| 6 暗褐色 | ローム粒子中量 | | |

遺物出土状況 土師器片10点（甕）、陶器片2点（播鉢、灯明皿）、礫2点が出土しているが、細片のため図示できない。すべて主室の天井崩落後に堆積した覆土中である。

所見 時期は、形状から中世と考えられる。



第26図 第4号地下式坑実測図

表8 地下式坑一覧表

遺構番号	位置	主軸方向	堅坑				主室				覆土	主な出土遺物	備考(時期)
			長軸×短軸	壁高 (cm)	平面形	底面	長軸×短軸	深さ (cm)	平面形	底面			
1	B 2 c0	N-85°-W	1.24×1.00	150	隅丸長方形	平坦	2.81×2.49	177	楕円形	平坦	自然土	陶器	中世
2	B 2 b0	N-14°-E	1.46×1.28	108	隅丸長方形	平坦	2.92×2.33	155	楕円形	平坦	自然土	陶器	中世
3	B 3 f7	N-53°-E N-50°-W	① 1.20×0.90 ② 1.04×1.00	112 112	隅丸長方形 隅丸長方形	平坦	3.20×2.00	164	隅丸長方形	平坦	自然土	ヤマトシジミ、 土師器	中世
4	B 3 g4	N-58°-W	1.22×1.18	158	隅丸長方形	平坦	1.48×1.36	160	隅丸長方形	平坦	人為	陶器	中世

(2) 土坑墓

第39号土坑 (第27図)

位置 調査区中央部のB 3 i2区、標高20.8mの台地上に位置している。

規模と形状 長軸1.69m、短軸1.15mの隅丸長方形で、深さは78cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がり、主軸方向はN-39°-Eである。

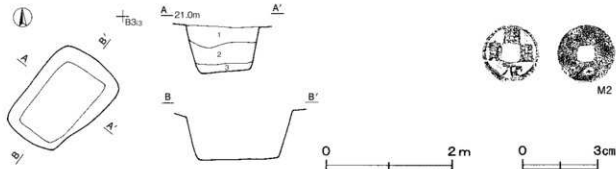
覆土 3層に分けられる。覆土の締まりが弱く、ローム主体の土で平坦に埋め戻した堆積状況を示している。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック微量
2 暗褐色 ロームブロック少量
3 褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 覆土中層から古銭（開元通寶）が出土している。

所見 埋め戻された堆積状況や、埋銭と考えられる古銭が出土していることから、中世の墓坑と考えられる。



第27図 第39号土坑・出土遺物実測図

第39号土坑出土遺物観察表（第27図）

番号	銭名	径	孔幅	重量	初鋳年	材質	特徴	出土位置	備考
M2	開元通寶	2.8	0.7	2.7	621	銅	無背銭	覆土中	PL.4

(3) 火葬土坑

第70号土坑（第28図）

位置 調査区中央部のC3g8区、標高20.4mに位置している。

規模と形状 攪乱を受けているが、長径0.7m、短径0.53mの楕円形に検出できた。深さは12cmで、底面は皿状で、壁は外傾して立ち上がっている。主軸方向はN-6°-Wである。

覆土 2層に分けられる。層厚が薄く、明確でないが、火葬後の埋め戻しと考えられる。

土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量
2 暗赤褐色 焼土粒子中量、炭化粒子少量、ローム粒子微量

遺物出土状況 底面から骨片および骨粉が少量検出されているが、細片のため明確でない。

所見 時期は、形状から中世と考えられる。

第71号土坑（第28図）

位置 調査区中央部のC3g8区、標高20.4mに位置している。

規模と形状 攪乱を受けているが、長径0.38m、短径0.28mの楕円形に検出できた。深さは6cmで、底面は皿状で、壁は外傾して立ち上がっている。主軸方向はN-12°-Wである。

覆土 層厚が薄く、明確でないが、火葬後の埋め戻しと考えられる。

土層解説

- 1 褐色 炭化粒子中量、ローム粒子少量

遺物出土状況 底面から骨片および骨粉が微量検出されているが、細片のため明確でない。

所見 時期は、形状から中世と考えられる。

第72号土坑 (第28図)

位置 調査区中央部のD4a4区、標高20.4mに位置している。

規模と形状 擾乱を受けているが、長径0.78m、短径0.48mの楕円形に検出できた。深さは8cmで、底面は皿状で、壁は外傾して立ち上がっている。主軸方向はN-62°-Wである。

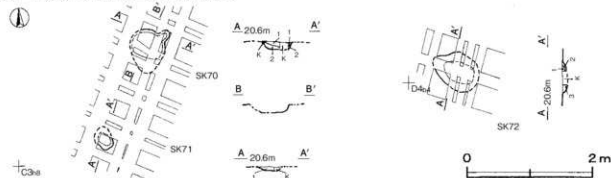
覆土 3層に分けられる。層厚が薄く、明確でないが、火葬後の埋め戻しと考えられる。

土層解説

- | | | | |
|--------|----------------|--------|----------------------|
| 1 暗赤褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子微量 | 3 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量、炭化物・ローム粒子微量 |
| 2 赤褐色 | 焼土ブロック少量、炭化物微量 | | |

遺物出土状況 底面から骨片および骨粉が微量検出されているが、細片のため明確でない。

所見 時期は、形状から中世と考えられる。



第28図 第70号・第71号・第72号土坑実測図

表9 火葬土坑一覧表

遺構番号	位置	主軸方向	平面形	規模 (m)						覆土	人骨 (有無)	備考 (時期)			
				燃焼部 (m)			通気溝 (m)								
				長径×短径	深さ (cm)	平面形	底面	長さ	上幅				下幅	深さ	底面
70	C 3g8	N-6°-W	楕円形	0.70×(0.53)	12	[楕円形]	皿状	-	-	-	-	-	人為	有	中世
71	C 3g8	N-12°-W	楕円形	(0.38)×0.28	6	[楕円形]	皿状	-	-	-	-	-	人為	有	中世
72	D 4a4	N-62°-W	楕円形	(0.78)×0.48	8	[楕円形]	皿状	-	-	-	-	-	人為	有	中世

5 その他の遺構と遺物

今回の調査で時期が明確でない炉跡4基、土坑墓2基、地点貝塚3か所、土坑71基、溝跡1条を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。なお、炉跡、土坑については遺構の実測図を記載する。

(1) 炉跡 (第29図)

第1号炉跡土層解説

- 暗赤褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- にがい赤褐色 焼土粒子少量、ロームブロック微量
- 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子微量

第2号炉跡土層解説

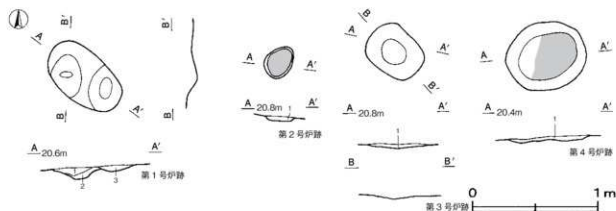
- 暗赤褐色 焼土ブロック中量、ローム粒子微量

第3号炉跡土層解説

- 赤褐色 焼土ブロック少量

第4号炉跡土層解説

- 暗赤褐色 焼土ブロック中量、ローム粒子微量



第29図 第1・2・3・4号炉跡実測図

表10 時期不明炉跡一覧表

遺構番号	位置	長径方向	平面形	規模 (m) 長径×短径	深さ (cm)	覆土	底面	壁面	主な出土遺物	備考 時期・重複関係 (古→新)
1	B 2a7	N-53°-W	楕円形	0.68 × 0.39	8	自然	凹凸	緩斜		
2	C 3b9	N-35°-E	楕円形	0.27 × 0.21	3	自然	皿状	緩斜		
3	B 2b9	N-44°-W	楕円形	0.47 × 0.37	2	自然	皿状	緩斜		
4	D 5f2	N-84°-E	楕円形	0.64 × 0.53	3	自然	皿状	緩斜		

(2) 土坑墓

第1号土坑 (第30図)

位置 調査区西部のB 2e6区、標高20.9mに位置している。

規模と形状 長軸0.92m、短軸0.91mの方形で、深さは32cmである。底面はほぼ平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。主軸方向はN-20°-Eである。

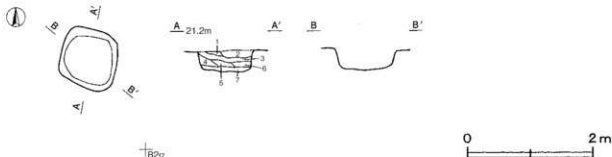
覆土 7層に分けられる。ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

1 暗褐色	ローム粒子微量	5 暗褐色	炭化物少量、ロームブロック微量
2 暗褐色	ロームブロック少量	6 褐色	ロームブロック少量、炭化物微量
3 暗褐色	ロームブロック少量、炭化物微量	7 極暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量
4 褐色	ローム粒子中量、炭化物微量		

遺物出土状況 覆土第4～7層にかけて骨粉が微量検出されているが、広がり確認できなかった。

所見 時期は明確でないが、骨粉が検出されていることから、土坑墓と考えられる。



第30図 第1号土坑実測図

第79号土坑（第31図）

位置 調査区東部のD5h6区、標高20mに位置している。

規模と形状 長軸2.38m、短軸1.55mほどの不定形で、深さは12cmほど、底面はほぼ平坦である。内部に幅8cm、深さは6cmほどの溝が巡っており、その溝の内側は、長軸1.92m、短軸1.08mの長方形を呈する。長軸方向はN-70°-Eである。

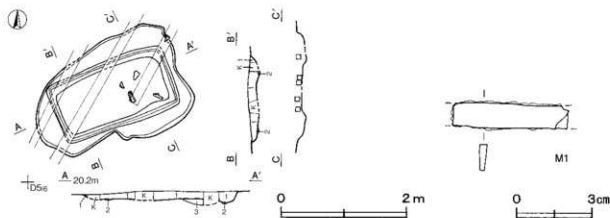
覆土 3層に分けられる。主に第1層の土で全体を埋め戻している。第3層は掘り方の覆土である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
2 褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量
3 暗褐色 ローム粒子少量、粘土ブロック微量

遺物出土状況 弥生土器片3点、土師器片6点（甕）、陶器片1点、不明鉄製品1点のほかに、雲母片岩片91点、礫486点も出土している。雲母片岩は長さ20cmほどの板石状のものが土坑内に散在した状態で出土し、また、礫は攪乱からも出土しているが、底面に多く出土している。出土土器は細片のため、図示できない。

所見 層厚が薄く、また攪乱を受けているため伴う土器が明確でなく、時期は明らかにできない。本跡内に溝が長方形に巡っていることや、出土している雲母片岩や小礫は、本跡底面に敷き詰められていたと推定できることから、埋葬施設の可能性がある。100mほど南へ離れた畑地内に、箱式石棺が露出した状態で発見された古墳時代後期中峰古墳があり、本跡は古墳に伴う埋葬施設の可能性もある。



第31図 第79号土坑・出土遺物実測図

第79号土坑出土遺物観察表（第31図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M1	不明鉄製品	(4.6)	1.1	0.3	(8.6)	鉄	刃部・端部欠損	表土	Pl.4 万朝館の基部*

表11 時期不明土坑墓一覧表

遺構番号	位置	長軸方向	平面形	規模 (m) 長軸×短軸	深さ (cm)	覆土	底面	壁面	主な出土遺物	備考 時期・重観関係 (古→新)
1	B2e6	N-20°-E	方形	0.92×0.91	32	人為	平坦	外傾	骨粉	
79	D5h6	N-70°-E	不定形	2.38×1.55	12	人為	平坦	斜傾	雲母片岩、礫、土師器、陶器、不明鉄製品	古墳時代*

(3) 地点貝塚

第1号地点貝塚 (第32図)

位置 調査区中央部のC 4 g8区、標高20mに位置している。

規模と形状 攪乱を受けているが、長径0.48m、短径0.38mの楕円形に検出された。深さは8cmで、底面は平坦である。長径方向はN-68°-Wである。

覆土 2層に分けられる。覆土上層に厚さ4cmの貝層が認められる。

土層解説

- 1 貝 層 純貝層
2 暗 褐色 ローム粒子・貝破片少量

遺物出土状況 ヤマトシジミ(右殻1127, 左殻993)、カワニナ2点が出土している。殻長の内訳は表12のとおりで、2.1~2.5cmのものが80%を占めている。

所見 ヤマトシジミは土坑状の掘り込み部に投棄されたものと考えられる。ヤマトシジミ以外の出土遺物はないため、時期は不明である。

第2号地点貝塚 (第32図)

位置 調査区中央部のC 3 a2区、標高21mに位置している。

規模と形状 攪乱を受けているが、長径1.53m、短径0.42mの不整楕円形に検出された。深さは19cmで、底面は平坦である。長径方向はN-80°-Wである。

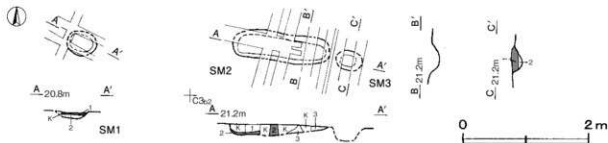
覆土 3層に分けられる。覆土中層に厚さ12cmほどの貝層が認められる。

土層解説

- 1 暗 褐色 ローム粒子微量、貝破片少量
2 貝 層 純貝層
3 暗 褐色 ローム粒子少量、貝破片少量

遺物出土状況 ヤマトシジミ(右殻960, 左殻932)、カワニナ63点が出土している。殻長の内訳は表12のとおりで、径が2.1~3.0cmのものが74%を占めており、ほかの地点貝塚より殻長がやや大きい。

所見 ヤマトシジミは土坑状の掘り込み部に投棄されたと考えられる。ヤマトシジミ以外の出土遺物はないため、時期は明確でないが、近隣の第1号住居跡からもヤマトシジミが出土しており、関連が想定される。



第32図 第1・2・3号地点貝塚実測図

第3号地点貝塚 (第32図)

位置 調査区中央部のC 3 a2区、標高20.9mに位置している。

規模と形状 攪乱を受けているが、長径0.42m、短径0.31mの楕円形に検出された。深さは18cmで、底面は皿状である。直径方向はN-80°-Wである。

覆土 2層に分けられる。覆土上層に厚さ10cmほどの貝層が認められる。

土層解説

1 貝 層 純貝層

2 暗褐色 ローム粒子・貝殻片少量

遺物出土状況 ヤマトシジミ(右殻1006, 左殻998), カワナ73点が出土している。出土した殻長の内訳は表12のとおりで, 径が2.1~3cmのものが86%を占めている。

所見 ヤマトシジミは土坑状の掘り込み部に投棄されたと考えられる。時期は, ヤマトシジミ以外の出土遺物はないため明確でないが, 近隣の第1号住居跡からもヤマトシジミが出土しており, 関連が想定される。

表12 地点貝塚ヤマトシジミ殻長別集計表

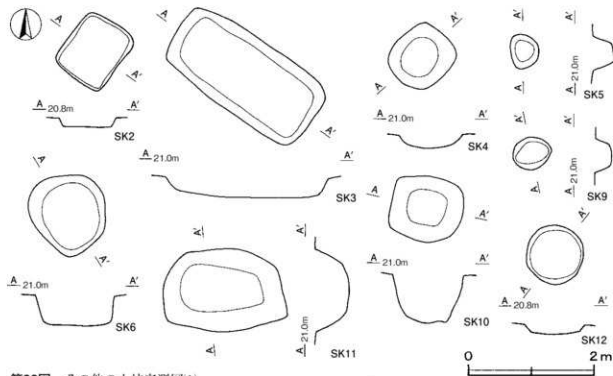
殻長 (cm)		1.0~1.5	1.6~2.0	2.1~2.5	2.6~3.0	3.1~3.5	3.6~4.0	4.1~4.5	小計 (個)	総重量 (g)
第1号地点貝塚	右殻	4	183	745	168	27	0	0	1127	2864.7
	左殻	3	208	606	166	10	0	0	993	
第2号地点貝塚	右殻	0	53	351	344	160	50	2	960	3974.2
	左殻	1	36	340	357	141	54	3	932	
第3号地点貝塚	右殻	1	110	488	378	28	1	0	1006	2962.3
	左殻	2	108	474	382	30	2	0	998	

表13 時期不明地点貝塚一覧表

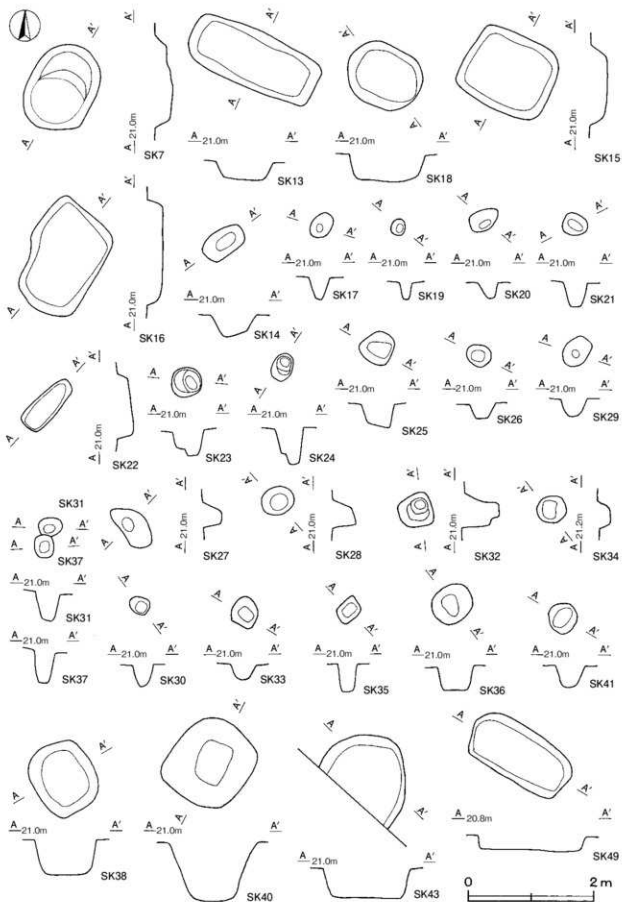
遺構番号	位置	長径方向	平面形	規模 (m) 長径×短径	深さ (cm)	覆土	底面	壁面	主な出土遺物	備考 時期・東洋関係 (古→新)
1	C 4g8	N-68°-W	楕円形	(0.48)×(0.38)	8	人為	平坦	外傾	ヤマトシジミ・カワナ	
2	C 3a2	N-80°-W	不整楕円形	(1.53)×0.42	19	人為	平坦	外傾	ヤマトシジミ・カワナ	
3	C 3a2	N-80°-W	楕円形	(0.42)×0.31	18	人為	皿状	緩斜	ヤマトシジミ・カワナ	

(4) 土坑 (第33~36図)

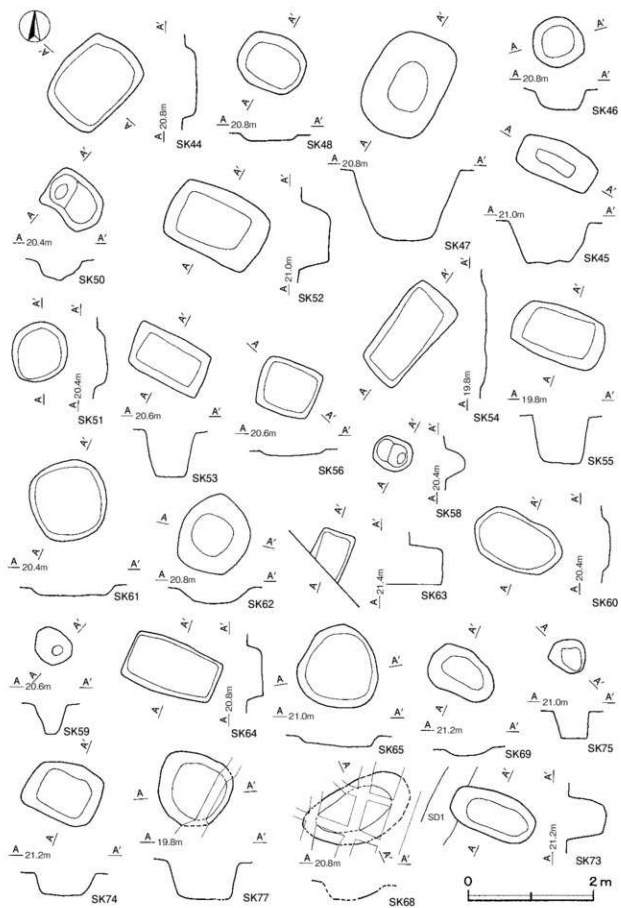
時期及び性格が明確でない土坑71基が確認された。以下, 確認された遺構の実測図を記載する。



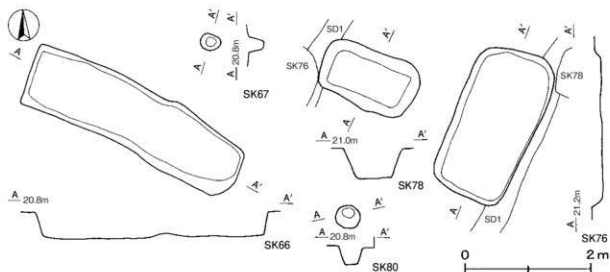
第33図 その他の土坑実測図(1)



第34図 その他の土坑実測図(2)



第35図 その他の土坑実測図3)



第36図 その他の土坑実測図(4)

表14 その他の土坑一覧表

遺構番号	位置	長径方向	平面形	規模 (m) 長径×短径	深さ (ca)	覆土	底面	壁面	主な出土遺物	調査 時期・重複関係 (古一跡)
2	B 2 b8	N-36°-E	長方形	1.10×0.90	15	人為	平坦	外傾		
3	B 2 b8	N-55°-W	長方形	2.58×1.22	32	人為	平坦	緩斜		
4	B 2 g8	N-45°-E	楕円形	1.02×0.90	20	自然	起伏	緩斜		
5	B 2 c7	N-28°-W	楕円形	0.55×0.44	35	人為	平坦	外傾		
6	B 2 d5	N-43°-W	楕円形	1.28×1.18	48	自然	平坦	外傾		
7	B 2 c7	N-28°-E	楕円形	1.45×1.07	28	人為	平坦	緩斜	縄文土器	
9	B 2 e4	N-61°-E	楕円形	0.62×0.52	30	自然	平坦	外傾		
10	B 2 e5	N-10°-E	方形	1.13×1.13	78	人為	平坦	外傾	陶器	
11	B 2 d6	N-90°-W	長方形	1.96×1.32	55	自然	起伏	外傾		
12	B 2 a8	N-0°	円形	0.92×0.92	16	自然	平坦	緩斜		
13	B 2 i8	N-67°-W	長方形	2.14×0.92	28	人為	平坦	外傾	陶器	
14	B 2 f0	N-55°-E	隅丸長方形	0.68×0.40	36	人為	緩斜	緩斜		
15	B 2 g8	N-64°-W	長方形	1.46×1.24	24	人為	平坦	緩斜		
16	B 2 d9	N-27°-E	長方形	1.72×1.14	22	人為	平坦	外傾	土師器	
17	B 2 d0	N-39°-E	楕円形	0.42×0.32	36	自然	緩斜	外傾		
18	B 2 d9	N-69°-W	楕円形	1.22×1.00	40	人為	平坦	外傾	土師器	
19	B 3 d1	N-15°-E	楕円形	0.27×0.21	27	自然	平坦	直立 外傾		
20	B 3 d1	N-65°-E	楕円形	0.48×0.32	26	自然	平坦	外傾		
21	B 3 d2	N-59°-W	楕円形	0.38×0.36	36	人為	平坦	外傾		
22	B 3 e1	N-43°-E	長方形	1.00×0.38	26	人為	緩斜	外傾	陶器	
23	B 3 e1	N-71°-E	楕円形	0.46×0.46	40	人為	平坦	緩斜		
24	B 3 e0	N-28°-E	楕円形	0.44×0.32	57	人為	緩斜	直立 外傾		
25	B 3 f1	N-63°-W	隅丸方形	0.54×0.50	38	自然	緩斜	外傾		
26	B 3 f1	N-57°-W	楕円形	0.40×0.34	24	自然	平坦	外傾		
27	B 2 e2	N-32°-W	楕円形	0.77×0.44	30	自然	平坦	外傾		
28	B 3 c1	N-63°-E	楕円形	0.54×0.46	38	自然	緩斜	直立 外傾	縄文土器	
29	B 2 f9	N-37°-E	楕円形	0.50×0.38	28	自然	起伏	緩斜		
30	B 2 f0	N-56°-W	楕円形	0.32×0.26	34	自然	平坦	外傾		
31	B 2 g9	N-89°-E	楕円形	0.38×0.28	42	自然	平坦	外傾		本跡→SK37
32	B 3 g1	N-68°-W	方形	0.60×0.58	58	自然	平坦	外傾		
33	B 3 g1	N-13°-W	楕円形	0.52×0.42	28	人為	起伏	外傾		
34	B 2 h0	N-89°-W	方形	0.46×0.42	18	人為	平坦	外傾		

遺構番号	位置	長径方向	平面形	間隔 (m) 長径×短径	深さ (cm)	覆土	底面	壁面	主な出土遺物	備考 時期・重複関係 (古→新)
35	B 3 g1	N-48°-E	長方形	0.40×0.30	45	自然	平坦	外傾	陶器	
36	B 3 g2	N-53°-E	楕円形	0.68×0.56	38	自然	平坦	外傾		
37	B 2 g9	N-0°	楕円形	0.36×0.32	50	自然	平坦	外傾		SK31→本跡
38	B 3 i2	N-29°-W	隅丸長方形	1.14×1.00	53	自然	平坦	外傾	縄文土器	
40	B 3 i3	N-20°-E	楕円形	1.29×1.27	91	人為	平坦	外傾	陶器、磁器	
41	B 3 i3	N-30°-E	楕円形	0.48×0.46	31	自然	平坦	外傾		
43	B 2 j1	N-47°-W	[楕円形]	1.50×(1.10)	47	自然	平坦	外傾	縄文土器、土師器、須恵器、陶器	
44	B 3 i9	N-45°-E	長方形	1.50×1.13	22	自然	平坦	外傾		
45	B 2 h0	N-68°-W	長方形	1.30×0.66	60	人為	平坦	外傾	土師質土器、瓦質土器	
46	B 3 j8	N-0°	円形	0.84×0.80	32	人為	平坦	外傾		
47	C 3 a8	N-20°-E	楕円形	1.68×1.20	112	人為	平坦	外傾	縄文土器、陶器	
48	B 3 j8	N-62°-W	楕円形	1.18×0.96	6	人為	平坦	縦計	縄文土器	
49	D 4 e8	N-58°-W	長方形	1.75×0.84	26	人為	平坦	外傾		
50	D 5 g3	N-52°-W	長方形	1.00×0.75	32	人為	平坦	外傾 縦計	土師器、襷	
51	D 5 g2	N-0°	円形	0.94×0.88	17	自然	平坦	外傾		
52	B 2 i9	N-64°-W	長方形	1.63×1.10	48	人為	平坦	外傾		
53	B 1 j9	N-63°-W	長方形	1.26×0.76	74	人為	平坦	外傾	磁器	
54	D 5 h9	N-42°-E	長方形	1.65×0.82	10	自然	平坦	縦計		
55	E 5 a5	N-66°-W	長方形	1.49×0.87	74	自然	平坦	外傾	縄文土器、須恵土器、土師器、陶器、磁器	
56	D 5 e3	N-66°-W	長方形	0.96×0.86	6	不明	平坦	縦計		SI 2→本跡
58	D 5 f1	N-67°-W	楕円形	0.63×0.52	30	自然	平坦	縦計	縄文土器、土師器	
59	D 4 i0	N-46°-W	楕円形	0.66×0.53	48	自然	平坦	外傾	土師器、陶器	
60	D 5 h1	N-71°-W	楕円形	1.45×0.87	12	自然	平坦	外傾		
61	C 4 i0	N-19°-W	隅丸長方形	1.24×1.22	15	自然	平坦	縦計	土師器	
62	B 2 d9	N-17°-E	円形	1.28×1.18	24	人為	平坦	縦計		
63	C 3 b3	N-20°-E	[長方形]	(0.62)×0.58	65	自然	平坦	直立	土師器	SI 1→本跡
64	E 5 a5	N-68°-W	長方形	1.48×0.86	24	自然	平坦	外傾	土師器	
65	B 3 e2	N-19°-W	円形	1.30×1.28	18	人為	平坦	縦計		
66	B 3 c1	N-51°-W	長方形	3.66×1.00	38	人為	平坦	外傾		
67	B 3 b1	N-70°-W	楕円形	0.34×0.24	24	自然	平坦	外傾		
68	C 4 h1	N-54°-E	[楕円形]	(1.73)×0.94	24	自然	崖状	縦計	土師器、陶器、瓦質土器	
69	B 2 i9	N-67°-W	楕円形	1.08×0.64	8	人為	崖状	縦計	土師器	
73	B 2 i9	N-67°-W	楕円長方形	1.36×0.69	59	人為	平坦	外傾		SD 1→本跡
74	C 3 a3	N-65°-W	長方形	1.17×0.91	35	人為	平坦	縦計	縄文土器、土師器、瓦質土器、磁器	
75	B 2 g0	N-84°-E	不整楕円形	0.68×0.57	40	自然	平坦	直立		
76	B 1 h9	N-23°-E	隅丸長方形	2.46×1.30	17	自然	平坦	縦計		SD 1→本跡
77	D 6 i2	N-26°-E	楕円形	1.15×1.12	58	人為	平坦	外傾		
78	D 2 g0	N-68°-W	長方形	1.59×0.93	44	人為	平坦	外傾	陶器	SD 1→本跡
80	B 3 e2	N-51°-W	楕円形	0.40×0.35	28	自然	平坦	外傾		

(5) 溝跡

第1号溝跡 (第37図)

位置 調査区中央部のB 2 0区、標高21mに位置している。

重複関係 第76・78号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 南部は調査区域外へ延びている。8mほど直線状に南北方向に確認され、上幅0.4m、下幅0.2m、深さ0.2m、断面U字状で、壁は外傾して立ち上がっている。主軸方向はN-27°-Eである。



第37図 第1号溝跡実測図

土層解説

1 黒褐色 ローム粒子少量

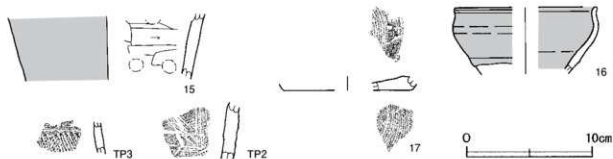
2 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

覆土 2層に分けられる。流れ込みの堆積状況を示す自然堆積である。

所見 出土遺物がなく、時期は不明である。

(6) 遺構外出土遺物 (第38図)

当遺跡から出土した遺構に伴わない主な遺物について、実測図及び出土遺物観察表で記載する。



第38図 遺構外出土遺物実測図

遺構外出土遺物観察表 (第38図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
15	陶器	瓶子	-	(52)	-	長石	灰白	普通	外面灰釉施軸 内面ナデ 指押さえ 輪積み痕跡有	SK22	古瀬戸 13 c *
16	陶器	天目茶碗	(112)	(53)	-	長石	暗褐	普通	外面ロクロ目 内・外面鉄軸施軸	表土	瀬戸・美濃系 20%
17	陶器	罐鉢	-	(12)	(103)	長石	黄橙	普通	底部内・外面羅り目8本以上	表土	瀬戸 5%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
TP2	縄文土器	深鉢	-	(44)	-	長石・石英	褐	普通	2本1組の平截竹管による平行瓦葺文施文 内面ナデ	表土	IV-3 後期前半
TP3	弥生土器	壺	-	(25)	-	長石	明黄褐	普通	頸部外面4本の輪状工具による流状文施文 付加葉一種縄文施文 内面ナデ	表土	IV-3 後期前半

第4節 ま と め

調査の結果、当遺跡は旧石器時代から中世にかけての複合遺跡であることが明らかになった。ここでは旧石器時代の石器群と中世の遺構を中心に若干の考察を加え、まとめとしたい。

1 旧石器時代の石器群の様相

本文で述べたとおり、359点の石器・石核・剥片は出土範囲から5か所の集中地点に区分することができた。調査区からは台石や敲石などは出土していないものの、第4・5号石器集中地点の石核と縦長剥片の接合状況、さらに第1・2・4・5号集中地点はチップ状の破片が多量に出土していることなどを含めて判断すると、小規模な石器製作跡といえることができる。ここでは、出土した石器の様相や特徴について若干の考察を加える。

石器は彫器が2点出土しているほか、長さが2.3～5.8cmで、やや小形の一個縁あるいは二個縁調整のナイフ形石器が出土している。これらを含めたすべての石器・剥片は、概ねA Tを含む層にあたる第2層から第2黒色帯上部にあたる第3層上部から出土しており、層格的にはほぼ同一文化層と推定される。主体となる石材は頁岩、流紋岩、安山岩で、それぞれ全出土石器数の約50%、約25%、約20%を占める。頁岩は各集中地点から

まんべんなく出土しているもの、流紋岩は第4号石器集中地点、安山岩は第5号石器集中地点にある程度までとまって出土している特徴があり、地点によって使用石材が異なっている。

石材別による接合資料及び剥片の割れ方にも、特徴が見られる。2か所の集中地点の頁岩製の石器接合資料1は、その接合状況から石核の打面を調整後、縦長剥片を連続的に剥離する石刃技法を用いていることが判明した。出土している剥片数や石材の色調から、複数の母岩が用いられていることは確実で、それらの調整剥片や縦長剥片の様相からは、同様の技法が用いられたものと推定できる。流紋岩は荒削り段階と推定される礫面を残すものや、接合資料3のような剥片の側縁を急斜度で剥離、あるいは切断している剥片も多く見られるのが特徴である。また、安山岩の剥片は、礫面を大きく残し、頁岩に比べやや大形の荒削り段階の剥片が多く出土しており、石器製作の初期段階である母岩の調整において、頁岩より粗雑な製作技術の印象を受ける。

石器群の時期については、出土層位から後期旧石器時代下総編年¹⁾のⅡa期新段階に当てはめることができるが、ATを含む層の上層は耕土のため確認できなかったことや石器群の様相から、後期旧石器時代下総編年のⅡb期の可能性も指摘しておきたい。当該期の遺跡としては、つくば市東岡中原遺跡、牛久市西ノ原遺跡、阿見町星合遺跡などがあげられる。安山岩、流紋岩、頁岩を主体とした石器群の類例は少なく、時期が不確定な遺跡や住居跡や土坑などの遺構覆土中からの出土が多いため、本跡で出土した石材の産地及び搬入ルートについては、類例から比較検討することはできなかった。

2 古墳時代の遺構と遺物について

第1号住居跡の床面から彎曲した土製品が出土している。基部は欠損しているため明確ではないが、先端部は爪のように先細りした形状である。成形後に表面はヘラでケズリ調整、指ナテの調整を施し、裏面はケズリ調整は行わず、一部分のナテ調整のみで、指押さえの痕跡が顕著にみられる粗雑な調整である。また色調は、表面に火を受けて赤変したと見られる二次焼成の痕跡があるが、裏面にその痕跡は見られないことから、灰の外周に置かれた土製品と推定される。また、同じ住居跡から口辺部にキザミ目を有する南関東系の壺形土器が床面にまもって出土している。6世紀代に比定される第4号住居跡は、西壁に竈を付設している。この時期の集落は、今回の調査区の東側が谷に向かう緩やかな傾斜地であることから、調査区域外に小規模な集落を形成しているものと推定される。谷を挟んだ舌状台地の縁辺部には、古墳時代中・後期の集落を主体とした堂ノ上遺跡が位置し、本跡との関連が考えられる。

3 中世の遺構について

今回の調査で確認された中世の墓坑である第39号土坑は、中央部やや西寄りに位置している。また、その周囲には、形状が長方形あるいは隅丸長方形の時期や性格が不明な土坑が多く存在している。それらの覆土は人為堆積の状況を示し、しまりが弱いなどの特徴があり、第39号土坑と類似している。遺物や骨片などが出土していないため断言できないが、墓坑の可能性があると指摘できる。

当遺跡周辺には1337年創立された鹿島神社があり、また『江戸崎町史』によると、1690年に門徒から不動院配下の末寺へ昇進した西福寺があったと記されている。このように、中世以降の当遺跡周辺は、神社・寺院と深く結びついた地である。西福寺は1791年に経営困難から荒廃の道をたどるが、西福寺跡の共同墓地を含め、当遺跡を取り囲むように小規模な墓地が畑地の中に点在していることから、中世頃から墓域であった可能性はある。

地下式坑は、検出した4基のうちの第1・3・4号地下式坑に羨道部の天井が遺存していた。羨道の幅は60

～74cm、高さは90～95cmと成人が屈んでとおるほどの広さで、大きな差は見られなかったが、頻繁な出入りはしにくい広さである。また、第1・2号地下式坑の堅坑は、締まりが非常に強く、粘土粒子が混じるロームで埋め戻していることから、堅坑の閉塞をしたものと考えられる。第3号地下式坑は堅坑が2か所検出されており、関東では、埼玉県、神奈川県、栃木県などで同様の地下式坑が数例報告されている。神奈川県本郷遺跡では、2か所の堅坑の時期差を検討しており、「2か所の堅坑の位置や覆土の堆積状況から、後に掘られた堅坑は、主室を再利用するためのもの³⁾と述べている。第3号地下式坑の覆土堆積状況からは、2か所の堅坑の時期差は明確にできなかったが、2か所の堅坑は同時に機能していたことは考えにくく、当遺跡の地下式坑も本郷遺跡と同様に堅坑を掘り直して主室を再利用した可能性はある。

地下式坑の用途としては、「倉庫説」や「墓坑説」などの機能が考えられている。県内の地下式坑は60遺跡400例を超え、それらは城館跡、墓域からの検出例が多い。当遺跡は中世に墓域として利用されていたが、出土遺物から、地下式坑と火葬土坑や土坑墓が同時に機能していたかを明確にしえなかったため、性格についても究明できなかった。地下式坑の時期については、15世紀後半に出現して、16世紀代に盛行する県内の報告例を考慮する³⁾と、中世後半には機能していたと推測できる。

註

- 1) 橋本勝雄「茨城県における旧石器時代の編年」『茨城県考古学協会旧石器時代シンポジウム実行委員会茨城県における旧石器時代研究の到達点—その現状と課題—発表要旨・資料集』茨城県考古学協会 2002年12月
- 2) 久保哲三ほか『海老名本郷V』本郷遺跡調査団 1988年3月
- 3) 比毛君男「関東の地下式坑を考える—茨城県—」『関東の地下式坑を考える』東国中世考古学研究会 2007年2月

参考文献

- ・矢ノ倉正男 寺門千勝「阿見東部工業団地造成工事地内埋蔵文化財報告書 星合遺跡 中ノ台遺跡」『茨城県教育財団調査文化財報告』第137集 1997年9月
- ・古墳時代研究班（集落グループ）「茨城の「S」字状口縁台付甕について（3）」『研究ノート』第7号 財団法人茨城県教育財団1998年6月
- ・櫻村宣行「茨城県南部における鬼高式土器について」『研究ノート』第2号 財団法人茨城県教育財団 1992年6月
- ・築瀬裕一ほか「全国地下式坑集成資料集」房総中近世考古学研究会・東国中世考古学研究会 2007年2月
- ・松本直人「茨城県における地下式坑の様相」『苑玖波—川井正一・齋藤弘道・佐藤正好先生還暦記念論集—』川井・齋藤・佐藤先生還暦記念事業実行委員会 2007年2月
- ・中島宏ほか「海谷遺跡第1～9・12・13・16～18次 第二橋峰遺跡群」『所沢市埋蔵文化財調査報告書』第31集 2003年3月
- ・木村等「道路建設地内遺跡発掘調査報告 辻の内遺跡」『栃木県埋蔵文化財報告』第39集 栃木県教育委員会 1981年3月

第4章 児松遺跡

第1節 遺跡の概要

児松遺跡は茨城県稲敷市江戸崎甲3840番地の1に所在し、標高約19～20mの沼里川と小野川に挟まれた舌台地上に立地している。調査面積は847㎡で、調査前の現況は畑地である。

調査の結果、縄文時代の住居跡1軒、陥し穴1基、土坑1基、遺物包含層1か所、時期不明の土坑6基が確認されている。出土遺物は、収納コンテナ（60×40×20cm）に6箱出土している。主な遺物は、縄文土器片（深鉢・浅鉢・注口土器・ミニチュア土器）、土師器片（坏・甕）、陶器片（播鉢・天目茶碗）、土製品（土器片錘・土器片円盤・有孔土器片円盤）、石器（尖頭器・石鎌・磨製石斧・細石刃）である。

第2節 基本層序

基本層序を確認するテストピットは、調査区北西部のD5b3区に設置した。地表面の標高は19.4mで、地表面から1.5mほど掘削し、基本土層図は第39図に示した。

土層は8層に細分され、第1～2層が表土、第3層がローム漸移層、第4～7層が関東ローム層、第8層が粘土層に対比される。以下、テストピットの観察から、各層の特徴を述べる。

第1層は暗褐色の耕作土（表土）で、焼土粒子・炭化粒子を微量、ローム小ブロックを少量含む。層厚は32～55cmである。

第2層は黒色の耕作土（旧表土）で、焼土粒子・炭化粒子を微量含む。層厚は8～25cmである。

第3層は褐色のローム漸移層で、焼土粒子・炭化物粒子を微量含む。層厚は15～30cmで、縄文土器を包含している。

第4層は褐色のソフトローム層で炭化粒子を微量含む。層厚は25～35cmである。

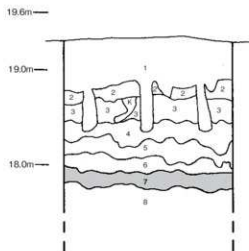
第5層は明褐色のハードローム層で、クラックが発達している。粘性、締まりともに強く、層厚は8～34cmである。

第6層は褐色のハードローム層で、粘性、締まりともに強い。層厚は8～23cmである。

第7層はにぶい褐色のハードローム層で、黒色粒子を微量含む。上層より色調が暗く、第2黒色帯に対比される。層厚は12～22cmである。

第8層はにぶい黄褐色の粘土層である。粘性が極めて強く、締まりは強い。層厚は未掘のため、不明である。

なお、遺構は、第3層上面で確認した。



第39図 基本土層図

第3節 遺構と遺物

1 縄文時代の遺構と遺物

縄文時代の遺構は、竪穴住居跡1軒、陥し穴1基、土坑1基、遺物包含層1か所が確認された。以下、遺構と遺物について記述する。

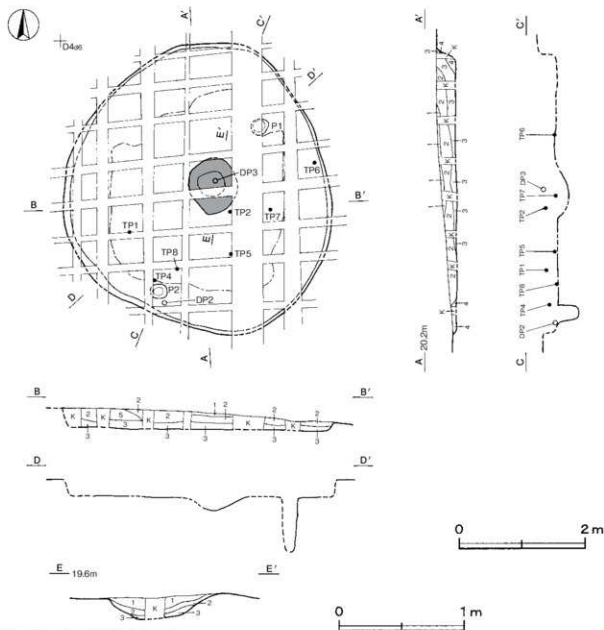
(1) 竪穴住居跡

第1号住居跡 (第40・41図)

位置 調査区中央部南側のD4 d6区、標高20mほどの緩斜面部に位置している。

規模と形状 長径4.6m、短径4.3mの楕円形である。壁高は12～34cmで、壁は外傾して立ち上がっている。主軸方向はN-3°-Eである。

床 平坦で、竪の周囲が硬く踏み固められている。



第40図 第1号住居跡実測図

炉 中央に付設されており、90cmほどの円形である。床面を18cmほど掘り込んだ地床炉で、炉床面は火を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

- 1 暗褐色 焼土粒子少量、ロームブロック・炭化物微量
 2 暗褐色 焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量
 3 暗赤褐色 焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子微量

ピット 2か所。P1・P2は深さ86cm・30cmで、深さに違いはあるものの、配置から柱穴と考えられる。攪乱を受けているため、ほかにピットは確認できなかった。

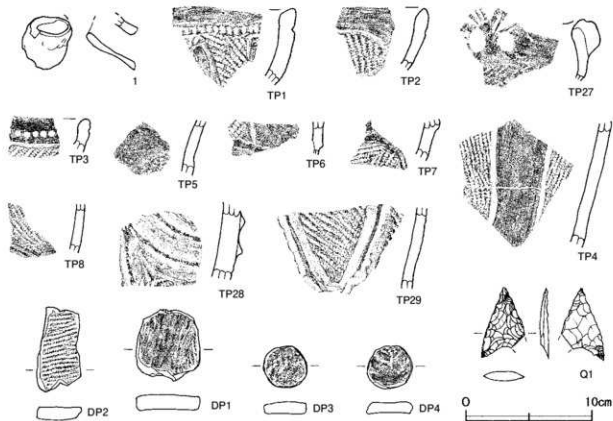
覆土 5層に分けられる。周囲からの流れ込みを示す自然堆積である。

土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
 2 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
 3 暗褐色 焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量
 4 褐色 ローム粒子微量
 5 に近い褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片902点（深鉢899、浅鉢1、注口土器1、ミニチュア土器1）、土製品9点（土器片錘5、土器片円盤3、有孔土器片円盤1）、石器1点（石鏃）、礫9点のほか、流れ込んだ不明鉄製品1点が出土している。加曾利EⅢ式期のTP5・TP6・TP8は、床面から出土している。多くの縄文土器片は、覆土上層から中層にかけて出土しており、加曾利EⅣ式期の土器片も含まれている。

所見 時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。



第41図 第1号住居跡出土遺物実測図

第1号住居跡出土遺物観察表（第41図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
1	縄文土器	注口土器	-	(42)	-	長石・石英・赤色粒子	にに近い黄緑	普通	注口部削りによる無紋	覆土中	PL10 中期後葉

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP1	縄文土器	深鉢	-	(6.1)	-	長石・石英・ 粘石・白色	灰褐色	普通	口唇部直下に刺突文施文。沈線による 縁部文を磨り消す。L R単節縄文 文	覆土上層	PL9 中期後葉
TP2	縄文土器	深鉢	-	(4.9)	-	長石・石英・ 白色粘石	橙	普通	沈線が沿う縁部文 R L単節縄文 文	覆土上層	PL9 中期後葉
TP3	縄文土器	深鉢	-	(2.6)	-	長石・石英・ 白色粘石	橙	普通	口唇部による区画内刺突文を施す。L R単節縄文 文	覆土中層	PL9 中期後葉
TP4	縄文土器	深鉢	-	(10.0)	-	長石・石英・ 粘石・赤色	橙	普通	沈線により区画文を施し、区画文外 を磨り消す。R L単節縄文 文	覆土中層	PL9 中期後葉
TP5	縄文土器	深鉢	-	(4.4)	-	長石・石英・ 赤粘石・赤色	橙	普通	沈線による縁部文を磨り消す。L R 単節縄文 文	床面	PL9 中期後葉
TP6	縄文土器	深鉢	-	(2.6)	-	長石・石英・ 白色粘石	にぶい 濁	普通	沈線による縁部文を磨り消す。L R 単節縄文 文	床面	PL9 中期後葉
TP7	縄文土器	深鉢	-	(3.3)	-	長石・石英・ 白色粘石	濁灰	普通	沈線が沿う縁部による区画文を施す。L R 単節縄文 文	床面	PL9 中期後葉
TP8	縄文土器	深鉢	-	(3.9)	-	長石・石英・ 赤粘石	明赤濁	普通	沈線による縁部文を磨り消す。R L 単節縄文 文	床面	PL9 中期後葉
TP27	縄文土器	深鉢	-	(4.8)	-	長石・石英・ 白色粘石	明黄濁	普通	口唇部直下に微隆帯を巡らす	覆土中層	PL9 中期後葉
TP28	縄文土器	深鉢	-	(6.1)	-	長石・石英・ 白色粘石	赤濁	普通	3本の隆帯による区画文を施す	覆土中層	PL9 中期後葉
TP29	縄文土器	深鉢	-	(6.5)	-	長石・石英・ 赤粘石	橙	普通	隆帯をU字状に巡らし文様を演出す。L R 単節縄文 文	覆土中層	PL9 中期後葉

番号	種別	径・長さ	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP 1	土器片鉢	5.7	5.2	1.4	47.9	長石・石英	周縁部一部研磨 両端にキザミ	覆土中層	PL10
DP 2	土器片鉢	6.8	3.6	1.2	30.4	長石・石英・ 赤色粘石	周縁部一部研磨 両端にキザミ	床面	PL10
DP 3	土器片円盤	3.3	3.4	1.0	14.1	長石・石英	周辺部研磨	覆土上層	PL10
DP 4	土器片円盤	3.4	3.7	1.0	11.0	長石・石英	周辺部研磨	覆土中層	PL10

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 1	石鏝	2.9	(1.7)	0.4	(1.2)	安山岩	無基鏝 両面押圧調整	覆土中層	PL10

(2) 陥し穴

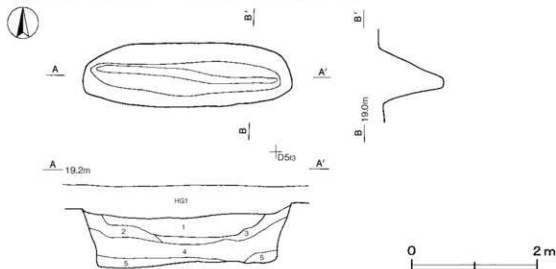
第1号陥し穴 (第42図)

位置 調査区中央部のD5e2区、標高18.6mほどの緩斜面部に位置している。

確認状況 第1号遺物包含層にトレンチを入れたところ、包含層の下位にV字状の落ち込みが確認された。

規模と形状 長径3.3m、短径1mの長楕円形で、深さが1m、底面はほぼ平坦である。短径方向の断面形はV字状で底面が狭く、壁はほぼ直立して立ち上がっている。主軸方向はN-90°-Wである。

覆土 6層に分けられる。周囲からの流れ込みを示す自然堆積である。



第42図 第1号陥し穴実測図

土層解説

- | | | | |
|---------|----------------|--------|------------------|
| 1 におい褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 4 極暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 2 灰褐色 | ロームブロック微量 | 5 褐色 | ローム粒子中量、粘土粒子少量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子少量 | 6 灰褐色 | 粘土粒子中量、ロームブロック少量 |

所見 形状から陥し穴と考えられる。本跡の上位には中期後葉の第1号遺物包含層が堆積していることから、時期は中期後葉以前と考えられる。

(3) 土坑

第5号土坑 (第43図)

位置 調査区北部のD4c0区、標高19.4mほどの傾斜面部に位置している。

規模と形状 長径1.3m、短径1mの楕円形で、深さは28cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。主軸方向はN-27°-Eである。

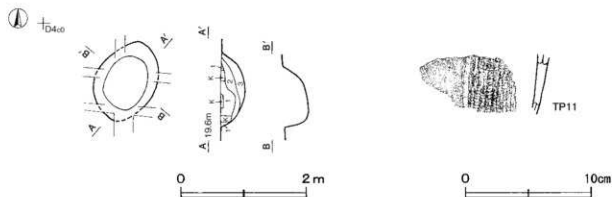
覆土 3層に分けられる。周囲からの流れ込みを示す自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|--------------|-------|---------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 3 暗褐色 | ローム粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片13点(深鉢)が出土している。TP11は覆土中からの出土である。

所見 時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。



第43図 第5号土坑・出土遺物実測図

第5号土坑遺物観察表 (第43図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP11	縄文土器	深鉢	-	(42)	-	長石・石英	におい黄橙	普通	沈線による縦糸文を磨り消すし、横糸は縦糸並文	覆土中	P19 中期後葉

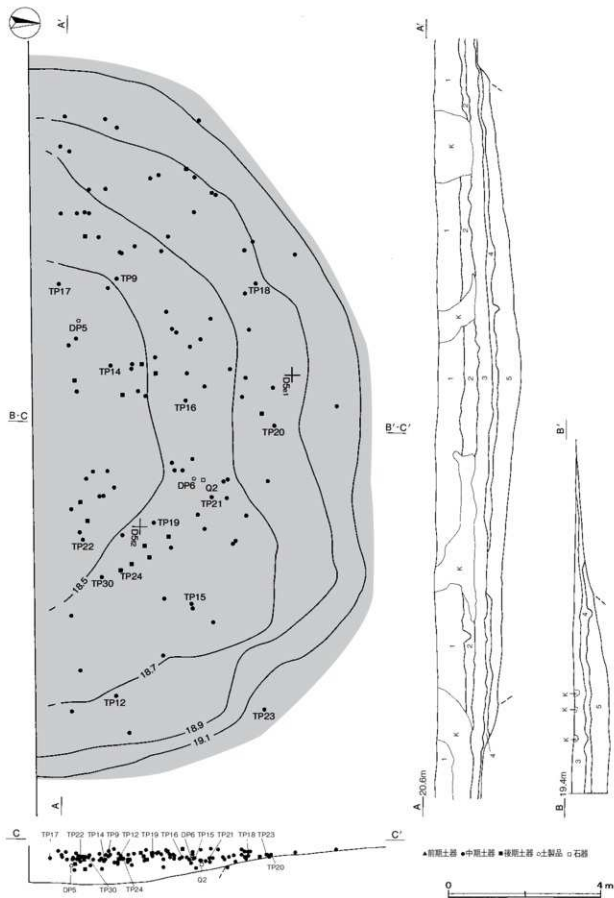
(4) 遺物包含層

第1号遺物包含層 (第44・45図)

位置 調査区中央部の標高19.1mほどの緩斜面部に位置している。

重複関係 本包含層下から第1号陥し穴が検出されている。第4号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 南北8.6m、東西19mの半円形の範囲に縄文土器が出土している。その範囲は暗褐色土で覆われており、北を谷頭として南に傾斜した埋没谷である。



第44图 第1号遺物包含層実測図

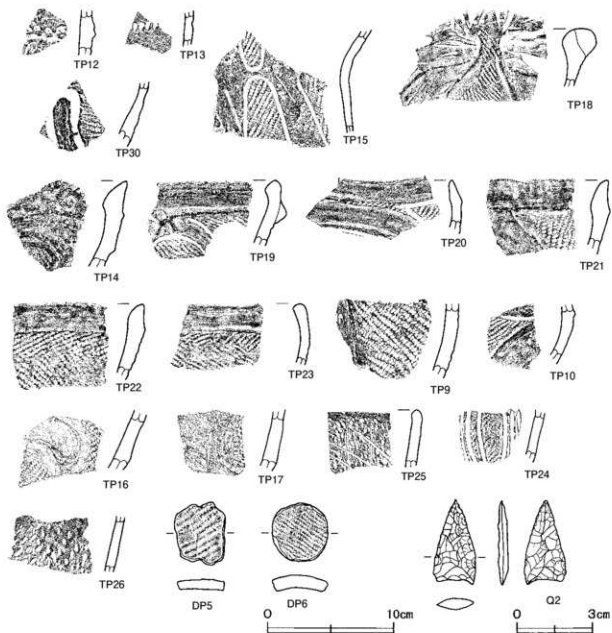
覆土 5層に分けられる。周囲から斜面への流れ込みを示す自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|------|---------------------|---------|----------------|
| 1 黒色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 2 褐色 | ローム粒子中量・焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 に近い褐色 | ローム粒子少量・炭化粒子微量 |
| 3 褐色 | ロームブロック少量・炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片1649点、土製品5点（土器片鉢4、土製円盤1）、礫3点のほか、土師質土器片1点、陶器片9点、磁器片3点、瓦質土器片4点、石器3点（尖頭器1、剥片2）も出土している。縄文土器片の内訳は、前期後半が4点、中期が1052点、後期が242点で、さらに摩滅や無文帯の細片など時期不明が351点である。これらは、覆土の第1から2層より出土しており、径が10cmほどの破片や、胎土が類似した破片も多く出土している。時期の判別ができるものは、中期後葉が多い。

所見 出土土器から、谷部がある程度埋没した中期後葉の時期から後期中葉の時期まで、断続的に遺物を投棄した包含層と考えられる。



第45図 第1号遺物包含層出土遺物実測図

第1号遺物包含層出土遺物観察表 (第45図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP9	縄文土器	深鉢	-	(5.9)	-	長石・石英・炭母	橙	普通	微隆帯により区画文を施し、区画文外を磨り消す。L1単節縄文施文	覆土上層	PL9 中期後葉
TP10	縄文土器	深鉢	-	(4.8)	-	長石・石英 に、白い炭母	普通	普通	口唇部直下に2本の微隆帯文を施す。L1単節縄文施文	覆土中	PL9 中期後葉
TP12	縄文土器	深鉢	-	(3.6)	-	長石・石英・炭母・赤色砂子	橙	普通	隆帯を施らず。隆帯上に凹形の刺突文を施す	覆土上層	PL9 中期後葉
TP13	縄文土器	深鉢	-	(2.9)	-	長石・石英・炭母	橙	普通	1列の爪形文施文	覆土中	PL9 前期前半
TP14	縄文土器	深鉢	-	(6.7)	-	長石・石英・炭母・赤色砂子	橙	普通	口唇部直下に2本の微隆帯文を施す	覆土上層	PL9 中期後葉
TP15	縄文土器	深鉢	-	(8.1)	-	長石・石英	褐	普通	沈殿により区画文を施し、区画文外を磨り消す。L1単節縄文施文	覆土上層	PL9 中期後葉
TP16	縄文土器	深鉢	-	(4.8)	-	長石・石英 に、白い炭母	普通	普通	微隆帯をU字状に施し文様を演出。L1単節縄文施文	覆土上層	PL9 中期後葉
TP17	縄文土器	深鉢	-	(4.9)	-	長石・石英	明褐色	普通	微隆帯により文様を演出。L1単節縄文施文	覆土上層	PL9 中期後葉
TP18	縄文土器	深鉢	-	(4.6)	-	長石・石英・炭母・赤色砂子 に、白い濁	普通	普通	口唇部直下に2本の微隆帯文を施す	覆土上層	PL9 中期後葉
TP19	縄文土器	深鉢	-	(5.2)	-	長石・石英・炭母	明黄褐色	普通	口唇部直下に微隆帯を施す。2本の沈殿により区画文を施し、区画文外を磨り消す	覆土上層	PL9 中期後葉
TP20	縄文土器	深鉢	-	(4.4)	-	長石・石英	明黄褐色	普通	口唇部直下に微隆帯を施す。沈殿による区画文を演出。L1単節縄文施文	覆土上層	PL9 中期後葉
TP21	縄文土器	深鉢	-	(6.0)	-	長石・石英・炭母	橙	普通	口唇部直下に微隆帯を施す。L1単節縄文施文	覆土上層	PL9 中期後葉
TP22	縄文土器	深鉢	-	(6.1)	-	長石・石英・炭母	浅黄	普通	口唇部直下に微隆帯を施す。L1単節縄文施文	覆土上層	PL9 中期後葉
TP23	縄文土器	深鉢	-	(5.2)	-	長石・石英・炭母・赤色砂子	黄褐色	普通	口唇部直下に沈殿による区画文を演出。L1単節縄文羽状横溝	覆土上層	PL9 中期後葉
TP24	縄文土器	深鉢	-	(3.9)	-	長石・石英	明赤褐色	普通	L1単節縄文施文後2本以上の沈殿文施文	覆土上層	PL9 後期前半
TP25	縄文土器	深鉢	-	(4.8)	-	長石・石英	明赤褐色	普通	口辺部斜格子状沈殿文施文	覆土中	PL9 後期中葉
TP26	縄文土器	深鉢	-	(4.4)	-	長石・石英・炭母	明褐色	普通	粗雑な単節縄文施文	覆土中	PL9 後期中葉
TP30	縄文土器	深鉢	-	(5.1)	-	長石・石英・炭母・赤色砂子 に、白い濁	普通	普通	沈殿により区画文を施し、区画文外を磨り消す。L1単節縄文施文	覆土上層	PL9 中期後葉

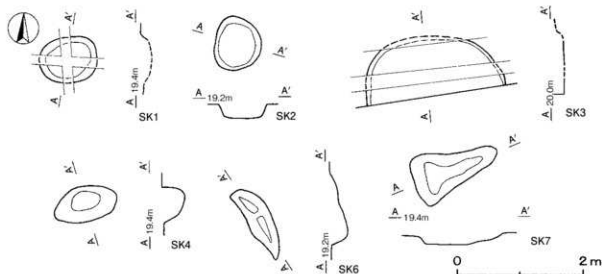
番号	種別	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特 徴	出土位置	備考
DP5	土器片鉢	5.0	4.1	0.9	20.4	長石・石英・炭母	周縁部一部研磨 両端にキザミ	覆土中層	
DP6	土器片円盤	4.6	4.4	1.3	21.7	長石・石英	周縁部研磨	覆土上層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特 徴	出土位置	備考
Q2	石皿	3.3	1.7	0.4	2.0	チャート	無多量両面押圧調整	覆土中層	PL10

2 その他の遺構と遺物

(1) 土坑 (第46図)

今回の調査で時期が明確でない土坑6基を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。



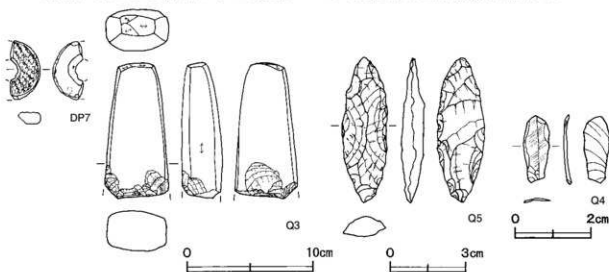
第46図 その他の土坑実測図

表15 その他の土坑一覧表

遺構番号	位置	長径方向	平面形	規模 (m) 長径×短径	深さ (cm)	覆土	底面	壁面	主な出土遺物	備考 時期・発掘関係 (古→新)
1	D 5 c3	N-73°-E	楕円形	0.9×0.72	7	人為	皿状	緩斜	縄文土器	
2	D 5 d6	N-1°-W	楕円形	0.86×0.74	22	人為	平坦	外傾	縄文土器	
3	D 4 f5	N-83°-E	(楕円形)	1.23×(1.0)	14	人為	平坦	外傾	縄文土器	
4	D 4 f9	N-75°-E	楕円形	1.0×0.6	32	自然	皿状	外傾		HG-1→本跡
6	D 5 e5	N-70°-E	不定形	1.26×0.46	26	自然	傾斜	緩斜		
7	D 5 f5	N-70°-E	不定形	1.4×0.58	14	自然	傾斜	緩斜		

(2) 遺構外出土遺物 (第47図)

当遺跡から出土した遺構に伴わない主な遺物について、実測図及び出土遺物観察表で記載する。



第47図 遺構外出土遺物実測図

遺構外出土遺物観察表 (第47図)

番号	種別	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP 7	有孔土器片断	(4.6)	2.4	(1.0)	(11.5)	長石・石英	周縁部研磨 中央部裏面より穿孔	表土	PL10
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 3	磨製石斧	(10.7)	(5.0)	3.1	(309.4)	砂岩	定角式 器体研磨 刃部欠損	表土	PL10
Q 4	細石刃	1.8	0.7	0.1	0.1	頁岩	右側縁に微細割離痕	SK-5 覆土中	PL10
Q 5	尖頭器	5.7	1.8	0.9	9.2	安山岩	両面調整 木葉形	HG-1 覆土中	PL10

第4節 ま と め

調査の結果、縄文時代の堅穴住居跡1軒、陥し穴1基、土坑1基、遺物包含層1か所、時期不明の土坑6基が確認された。当遺跡は縄文時代に居住域として、また狩猟場として利用していたことが判明した。ここでは縄文時代の遺構について若干の考察を行いたい。

1 陥し穴について

今回の調査で、陥し穴は1基確認されている。県南地域の陥し穴は、龍ヶ崎市赤松遺跡、つくば市中西ノ妻遺跡、阿見町矢ノ沢遺跡など、多くの遺跡において確認されている。陥し穴は単独での報告例もあるものの、数基以上が直線あるいは弧状に配置されている報告例が多い。当遺跡も単独であるが、遺跡の範囲はさらに広がることから、数基の陥し穴が調査区外に配置されている可能性がある。

陥し穴の形状や時期を検討した中村信博氏の論考によると、関東地方における陥し穴の盛行期について「草創期後半から早期中葉、中期から後期の2時期」¹⁾と述べている。下妻市(旧千代川村)西原遺跡は、陥し穴28基が弧状に確認された遺跡である。中村氏の形状分類によれば、長軸方向の底部からほぼ垂直に立ち上がるB型²⁾に該当している。また、西原遺跡の陥し穴の時期は、加曾利EⅢ式・EⅣ式期の土器が8基の陥し穴から出土し、その出土状況から中村氏が述べている中期から後期の盛行期に一致する。

当遺跡の陥し穴は1基のみではあるが、形状は西原遺跡と同じB型にあてはまる。その時期の土器は出土していないが、陥し穴の上位には中期及び後期の土器が出土した第1号遺物包含層が薄く堆積している。陥し穴の深さは1mほどで、谷部の傾斜面に位置していることから、埋没する期間は平坦部より短いと推定できることから、当遺跡の陥し穴の時期は、中期と大別することができる。

2 縄文時代の集落について

今回の調査では中期後葉の住居跡1軒が確認されている。地形図を見ると、調査区の北西方向には平坦な台地が広がることから、本跡を含め数軒の集落が形成されている可能性がある。中峰遺跡や村田貝塚からも加曾利EⅣ期の土器が出土していることから、当遺跡周辺の広い範囲で同時期の集落が形成されていた可能性があり、人々の生活領域の一部としてこの地の往来があったことも想定される。

註

- 1) 中村信博「関東の溝型陥し穴盛行期に見られる二つの配置形態」『栃木の考古学 - 堀静夫先生古希記念論文集 -』堀静夫先生古希記念論文集「栃木の考古学」刊行会 2003年11月
- 2) 註1)と同じ。中村氏は、陥し穴の形状からAⅠ・AⅡ・BⅠ・BⅡ・C・D型の6つに分類しているが、当遺跡の陥し穴は1基のため、底部長の分類を統合し、A・B・C・D型と4つの分類とした。

参考文献

- ・川井正一「竜ヶ崎ニュータウン内埋蔵文化財調査報告書4 赤松遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第4集、1980年3月
- ・後藤孝行「一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設工事地内埋蔵文化財調査報告書 中西ノ妻遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第234集 2005年3月
- ・綿引英樹は「一般国道四六八号首都圏中央連絡自動車道新設工事地内埋蔵文化財調査報告書 矢ノ沢遺跡 手接遺跡花房遺跡 大日遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第212集 2005年3月
- ・小川和博は「倉庫建設に伴う埋蔵文化財発掘調査 - 西原遺跡発掘調査報告書 -」『千代川村埋蔵文化財発掘調査報告書』第6集 2000年3月
- ・西村正衛「石器時代における利根川流域の研究 - 貝塚を中心として -」早稲田大学出版部 1984年12月

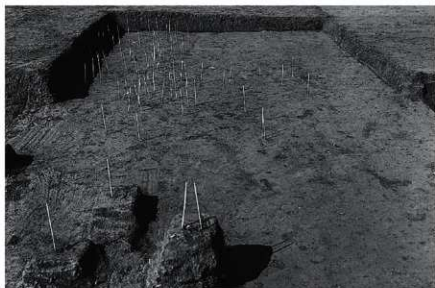
写 真 図 版

中 峰 遺 跡
児 松 遺 跡



中峰遺跡全景（北から）

第2号石器集中地点
石器・炭化物出土状況



第1号住居跡
完掘状況



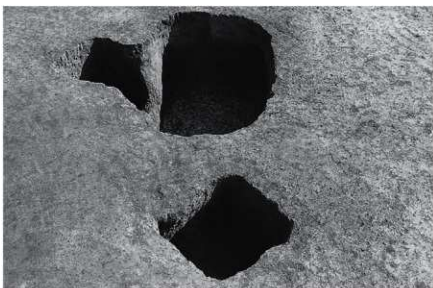
第2号住居跡ピット2
遺物出土状況



PL2



第2号地下式坑
完掘状況



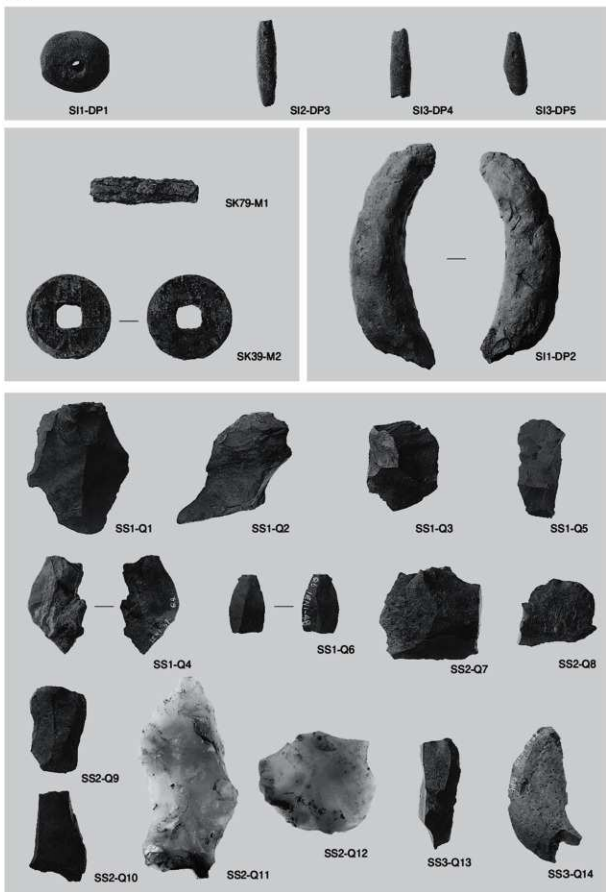
第3号地下式坑
完掘状況



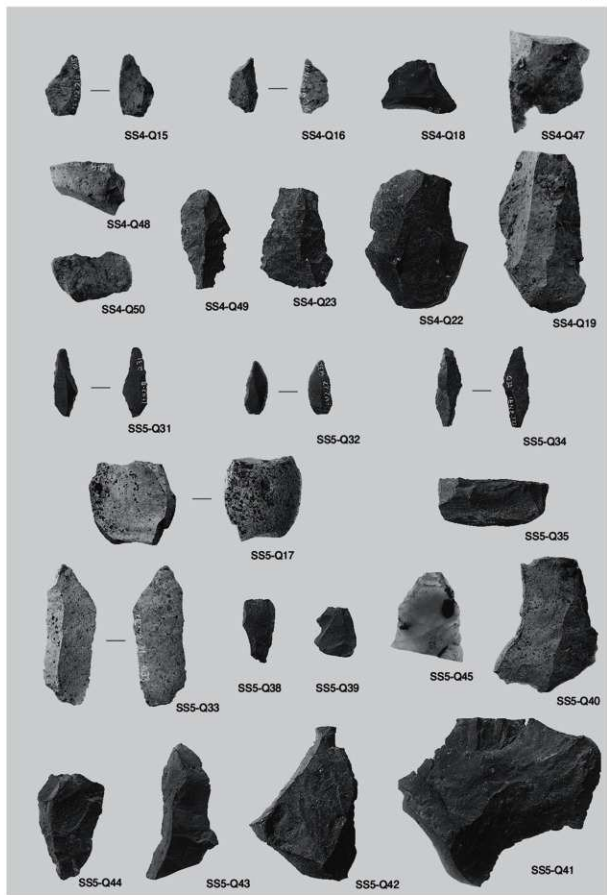
第1号地点貝塚
ヤマトシジミ出土状況



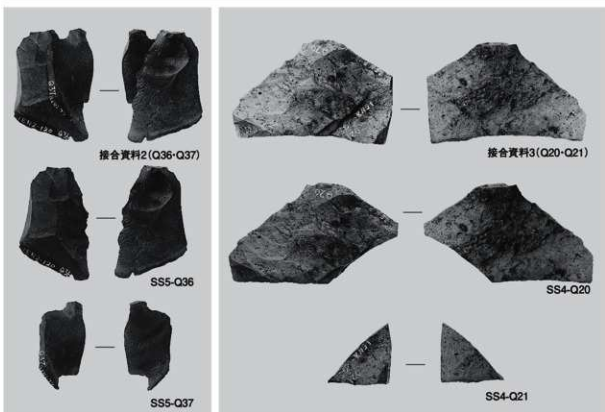
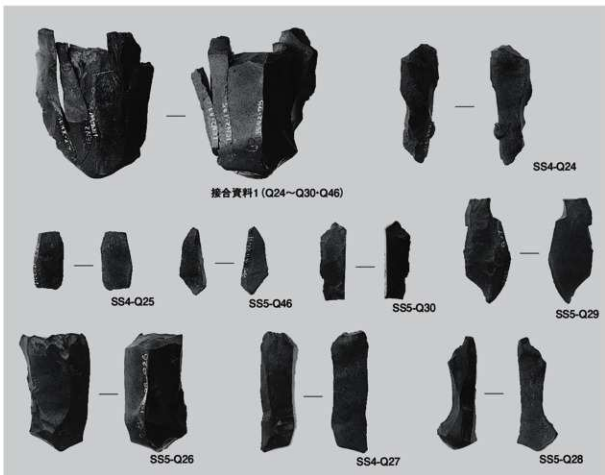
第1・2・4号住居跡，第8号土坑，遺構外出土遺物



第1・2・3号住居跡，第39・79号土坑，第1調査区（第1・2・3号石器集中地点）出土遺物



第2調査区（第4・5号石器集中地点）出土遺物



第2調査区 (第4・5号石器集中地点) 出土遺物

見松遺跡
調査終了状況



第1号住居跡
完掘状況



第1号住居跡
遺物出土状況



PL8



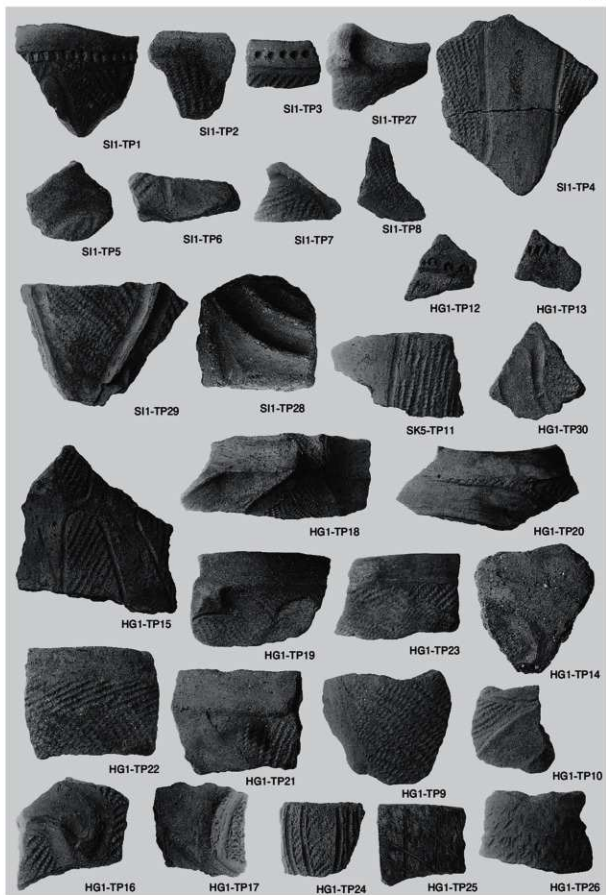
第1号陥し穴
完掘状況



第1号遺物包含層
遺物出土状況1

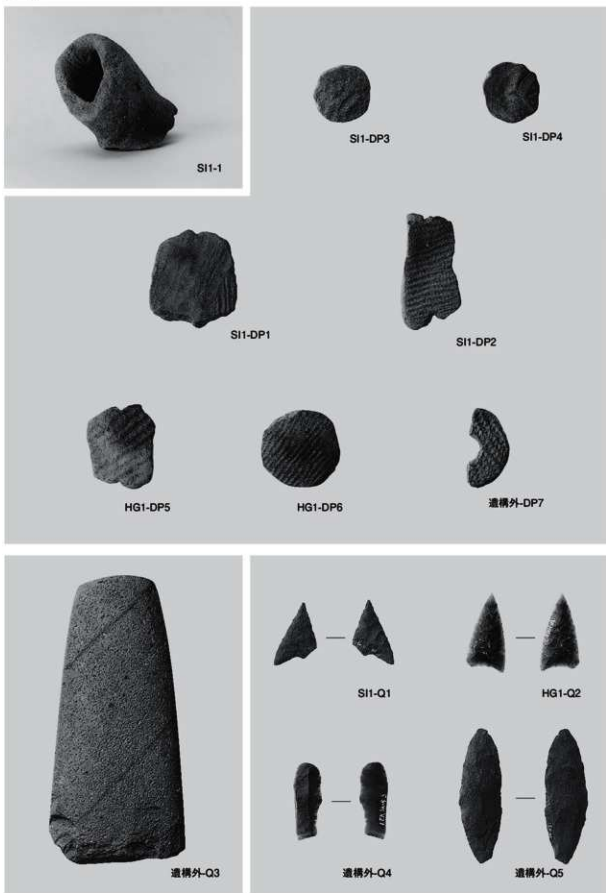


第1号遺物包含層
遺物出土状況2



第1号住居跡，第5号土坑，第1号遺物包含層出土遺物

PL10



第1号住居跡，第1号遺物包含層，遺構外出土遺物

茨城県教育財団文化財調査報告第286集

中峰遺跡
児松遺跡

一般国道468号線首都圏中央連絡自動車道
新設工事地内埋蔵文化財調査報告書

平成20(2008)年3月19日 印刷

平成20(2008)年3月24日 発行

発行 財団法人 茨城県教育財団

〒310-0911 水戸市見和1丁目356番地の2

茨城県水戸生涯学習センター分館内

T E L 029-225-6587

印刷 株式会社 あけぼの印刷社

〒310-0804 水戸市白梅1丁目2番11号

T E L 029-227-5505